

高知県立埋蔵文化財センター 30周年記念特別展

発掘の軌跡

遺跡で紡いだ高知の歴史

30周年特別展記念誌
高知県立埋蔵文化財センター
(公益財団法人 高知県文化財団)



高知県立埋蔵文化財センター30周年記念特別展

発掘の軌跡

～遺跡で紡いだ高知の歴史～



中広形銅矛の出土状況
(土佐市 天崎遺跡)

30周年特別展記念誌

目次

- 埋蔵文化財センター30年の歩み
埋蔵文化財センター30周年を迎えて(松田直則) 1
- 展示遺跡の位置図など

発掘の軌跡 ～遺跡で紡いだ高知の歴史～

高知龍馬空港と田村遺跡群の調査	(久家隆芳) 3
田村遺跡群と弥生時代最大のマツリ場	(〃) 4
弥生文化の成立と田村遺跡	(出原恵三) 5
特別寄稿 1 「境界」に位置する弥生時代の田村遺跡	(禰亙田佳男) 6
高知自動車道と奥谷南遺跡の調査	(森田尚宏) 7
奥谷南遺跡の旧石器	(〃) 8
高知自動車道と居徳遺跡群	(出原恵三) 9
縄文時代晩期・居徳遺跡の世界	(〃) 10
特別寄稿 2 縄文文化のなかの居徳遺跡	(関根達人) 11
特別寄稿 3 シンボリズムで読み解く縄文人の世界観	(大島直行) 12
中村宿毛道路と中筋川流域の中世遺跡群	(松田直則) 13
土佐市バイパスと高岡地域の諸遺跡	(山崎孝盛) 14
特別寄稿 4 中世の遺跡から見た土佐の風景	(鋤柄俊夫) 15
高知西バイパスと天神溝田遺跡・バーガ森北斜面遺跡	(吉成承三) 16
向山戦争遺跡の調査	(出原恵三) 17
南国安芸道路と東野土居遺跡・高田遺跡などの調査	(池澤俊幸・山崎孝盛) 18
石垣が語る高知城の歴史	(松田直則) 19



埋蔵文化財センター30年の動向	(吉成承三) 21
付篇：発掘調査一覧	22～27
執筆者紹介	

● 埋蔵文化財センター 30年の歩み ●

- 平成 2年 3月 財団法人高知県文化財団設立・埋蔵文化財センター開設準備室設置
(1990)
- 平成 2年 6月 財団職員 2名調査員採用
- 平成 3年 2月 埋蔵文化財センター北館完成
- 平成 3年 4月 高知県立埋蔵文化財センター設置・財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター開設
- 平成 4年 4月 財団職員 2名調査員採用
- 平成 5年 4月 所長・総務課長・調査課長を配置
- 平成 5年 7月 埋蔵文化財センター南館完成
- 平成 7年 1月 阪神・淡路大震災
- 平成 7年 8月 全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会開催
- 平成 8年 6月 財団職員 5名調査員採用
- 平成 8年 9月 土佐市バイパス事業対応のため土佐市発掘調査事務所設置
- 平成 9年 2月 高知空港拡張整備事業対応のため高知空港発掘調査事務所設置
- 平成 9年 12月 高知自動車道(居徳遺跡群)事業対応のため居徳遺跡群発掘調査事務所設置
- 平成 10年 10月 高知豪雨災害(県立美術館1階が浸水被害)
- 平成 11年 5月 出前考古学教室を開始
- 平成 11年 9月 県立美術館で「高知の遺跡速報展」を開催
- 平成 11年 10月 埋蔵文化財センターホームページを開設
- 平成 13年 10月 埋蔵文化財センター本館・収蔵庫完成(国庫補助事業)
- 平成 16年 4月 四国の4県1市で四国地区埋蔵文化財センター巡回展「発掘へんろ」を開催
- 平成 18年 4月 指定管理者制度導入・高知県立埋蔵文化財センター指定管理者となる、企画調整班新設
- 平成 19年 4月 古代ものづくり体験教室を開始
- 平成 23年 3月 東日本大震災
- 平成 23年 4月 県文化財課職員 3名採用
- 平成 24年 4月 公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターに名称変更
- 平成 27年 11月 まいぶんセンターまつりを実施
- 平成 28年 6月 全国埋蔵文化財法人連絡協議会の会長法人となる
- 平成 29年 7月 埋蔵文化財センターホームページをリニューアル
- 平成 30年 4月 県文化財課職員 2名採用(1名は建造物)
- 平成 31年・令和元年 年号が「令和」に改まる
(2019)
- 令和 2年 3月 新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的蔓延
- 令和 2年 4月 県文化財課職員 1名採用

— 埋蔵文化財センター 30周年を迎えて —

平成2年(1990)3月に、財団法人高知県文化財団が設立され埋蔵文化財センター準備室が開設、平成3年4月には高知県立埋蔵文化財センターが新設されました。この度、財団設立と当センター準備室が誕生した、その産声から30年目を迎えます。

埋蔵文化財センターでは、国や県の開発事業に伴う発掘調査を実施するとともに、平成18年度からは県立施設の指定管理を受けて、施設の管理運営や広報普及事業を推進しております。これまでの発掘調査を振り返ってみると、県の歴史を塗り替える数多くの新発見がありました。

旧石器時代では奥谷南遺跡での細石刃の発見、縄文時代は居徳遺跡群から殺傷人骨や東北地方の土器などが出土し、弥生時代では田村遺跡群で前期の集落跡、古墳時代は伏原大塚古墳の埴輪や古津賀遺跡群の河川祭祀跡の発見などがありました。古代では、高田遺跡の道路遺構や若宮ノ東遺跡の県内最大級 大型掘立柱建物跡の発見があり古代土佐国の礎^{いしづえ}が見えてきました。中世では、四万十川支流で中筋川流域の具同中山遺跡群や一條氏の寺院跡として知られる坂本遺跡、仁淀川流域の土佐市 高岡地域の遺跡や上ノ村遺跡では活発な広域流通が垣間みられ、長宗我部氏の居城である岡豊城跡(国史跡)などの山城調査では、戦国時代の群雄割拠の痕跡をつかむことができました。近世では、高知城の石垣解体調査から長宗我部期の石垣の発見もあり、追手筋遺跡では高知城下町の変遷も徐々に明らかになっています。近代の遺跡では、向山戦争遺跡の調査を通して戦争爪跡の記録を後世に残すことができました。今回の特別展では、30年間におよぶ高知県発掘史としての数々の調査成果を展示しています。

今回の特別展開催や記念誌の作成にあたっては、発掘調査時にお世話になった関係機関や地域の皆様方、また日頃からご指導頂いております有識者の先生方や、30周年を記念して本誌にご寄稿いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

これからの埋蔵文化財センターは、この30年の歩みをさらに発展させ、高知県の郷土の歴史を復元できる調査研究を進めていき、県民の皆様に魅力ある「発掘物語」をお届けでき、地域に力を与えるような埋蔵文化財センターであり続けるように日々の研鑽に務めたく思っております。

今後も末長く、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

埋蔵文化財センター所長 松田直則

高知龍馬空港と田村遺跡群の調査

高知県南国市田村^{なんこく たむら}に位置する田村遺跡群は、1980年代以降、2度にわたる高知空港(現:高知龍馬空港)拡張整備事業に伴って約30万m²という広大な面積が発掘調査され、縄文時代から近世にわたる複合遺跡であることが判明するとともに、遺跡の発掘調査を通して高知県の歴史が明らかになることを印象付けた。

第1次調査は2,000mの滑走路を新設するために1979～1983年度にかけて約14万4千m²、第2次調査は滑走路を北西に500m延長のために1996～2001年度にかけて約15万4千m²の範囲で実施された。

縄文時代は後期を中心に前期・中期の遺物も出土している。高知平野で縄文時代の遺物がまとまって出土したのは田村遺跡群が初めてである。出土した後期の縄文土器(中津式・平城I式・鐘崎式・片粕式^{なかつ ひらじょうかねざきかたかす})からは、九州・四国西南部や瀬戸内との関係が窺われる。

弥生時代は全期間を通して集落が営まれ、検出した竪穴建物跡は約440棟、掘立柱建物

跡は約240棟、土坑は約2,800基を数える。第1次調査では前期初頭の集落跡が見つかり全国的に注目を集めた。中期末から後期初頭には最盛期を迎え西日本でも屈指の大規模集落(拠点集落^{きよてん})に発展した。遺跡からは、おびただしい数の土器・石器のほか、銅矛^{どうぼこ}・銅鐸^{どうたく}の舌・銅鏡片(方格規矩四神鏡^{ほうかくきぎくししんきょう})・有鉤銅釧^{ゆうこうどうくしろ}等の多種類の青銅器が出土し、田村遺跡群の求心性を示している。

古代では75棟の掘立柱建物跡が復元でき、8世紀中頃～9世紀前半代、10～11世紀に機能したと見られる。建物群は3～4箇所^{くうけ}にまとまって分布し、規模や企画性等に違いが認められる。これらの建物群は田村郷家や田村庄に関連する施設であったと考えられる。

中世では守護代細川氏の居館跡(守護所)である田村城館及び溝で囲まれた家臣団の屋敷跡が32箇所検出された。田村城館では土塁や堀の一部を確認し、屋敷跡は一辺20～50mの区画内に掘立柱建物跡や井戸跡等で構成されていたことが明らかとなった。中世を迎えこの田村の地は再び土佐国の中心となる。近年では遺跡群の北を東西に走る高知南国道路の建設に伴って発掘調査が行われ、田村遺跡群が北方へ展開することが判明している。



上空から望む田村遺跡群



弥生時代の竪穴建物跡と古代の掘立柱建物跡

(久家 隆芳)

田村遺跡群と弥生時代最大のマツリ場

弥生時代のマツリと言えば銅鐸^{どうたく}などの青銅器を使用した「マツリ」が思い浮かぶ。田村遺跡群でも銅鐸^{どうたく}・銅矛^{どうほこ}などを使ったマツリが行われていたことは間違いないが、ここでは土器を使用したマツリを取り上げ、田村遺跡群が南四国を代表する大規模集落へと発展した軌跡を追ってみたい。

日常生活で最も身近にある土器を使用したマツリだからこそ、そこで暮らしていた人々の思いや考えが色濃く反映されていると考える。マツリ場(E6

区SX601)は長軸約13m、短軸約9m、深さ約70cmの穴を掘り、弥生時代前期末から中期前半までの約300年間にわたって多量の土器^{いっき}が遺棄され続けた。田村遺跡群では最大規模のマツリ場である。出土した土器片を接合すると完形あるいは完形近くまで復原可能なものが多い。割れたから廃棄したのではない。異形壺^{いけい}などの唯一無二の器形の土器が出土していることから、マツリに使用し遺棄したことを裏付けている。田村遺跡群に住んでいた弥生人にとって、ここは神聖な場所であった。

さて、この場でマツリが始まった頃、田村遺跡群ではピンチを迎えていた。稲作や飲み水として利用してきた川が干上がってしまったのである。干上がった川底には地下水を求めて掘った穴がいくつも見つかっている。ここでのマツリは「雨乞いの儀式」^{あまご}だったと考えられる。一方、ここでのマツリが行われなくなった頃、大溝が新たに掘削された。大溝が掘られたのは取水のためであり、これによって水不足の問題は解消された。

ここで強調しておきたいことは課題解決を「カミ」に託したのではなく、マンパワーを結集させ大溝を掘削するという現実的な方法で課題を克服したことである。人力を結集させるには強力な求心力が必要で、その背後には権力を蓄えつつあった首長の存在が見えてくる。

この大溝の掘削によりそれまで神聖な場所であったマツリ場が壊されたことは、既存の価値観の否定であり、その否定の上に享受^{きやうじゆ}できた恩恵を人々に示すことによって新たな価値観を創出したのではないか…。ここに田村遺跡群を拠点集落へと導いていくリーダーの輪郭がはっきりとしてくる。



マツリ場から出土した異形壺



マツリ場（土器溜まり遺構）

(久家 隆芳)

弥生文化の成立と田村遺跡

弥生文化は日本列島に生起した幾多の文化の中で最も大きな変革をもたらした。水田農耕、金属器の使用、大規模開発、戦争など自然と人間、人間と人間の間にも大きな変化が生じたのである。現代社会の出発点と言っても過言ではなかろう。このような重要な内容を秘めた弥生文化がどのようにして成立したのか。縄文文化から弥生文化にどのように移行したのかということは、日本考古学の最大の関心事の一つであった。特に大陸に近い北部九州を中心に土器、石器、青銅器などの遺物、水田や墓などの遺構について精力的な研究が長期にわたって蓄積されてきた。しかし変革期の舞台、すなわち初期の集落の実態については、良好な資料に恵まれず戦後長きにわたって厚いヴェールに覆われたままであった。ところが田村遺跡において忽然とその姿を表したのである。成立期の集落は田村遺跡の南端部に位置し、10棟の竪穴建物と16棟の掘立柱建物や土坑、墓などによって構成されていた。竪穴建物は大型と小型が一對となって集落の外縁に並び、その内側に掘立柱建物が配置され、さらにその内側には土坑や墓、広場が設けられる求心的な構造を有している。竪穴建物は、中央土坑の両脇に小穴を有する特徴を持ち、その系譜は朝鮮半島の松菊里型^{ソンクンニ}住居に求められる。掘立柱建物は多柱穴の大型建物が含まれており溝状の土坑が伴う。当時、弥生時代の初めに遡る大型の掘立柱建物は未発見であり、その存在が田村遺跡で初めて明らかとなったのである。



松菊里型の円形大型建物跡



出土した磨製石鎌

出土遺物にも注目しなければならない。当時、弥生文化成立期の土器は、縄文時代晩期の土器と共伴出土することが一般的であり、西日本各地では成立期の弥生土器はどのような晩期土器と共伴するのかということに関心が注がれていた。ところが田村遺跡では最古の弥生土器の一群が晩期土器を伴わず、純粹に展開していたのである。しかもそれらの土器は例外なく、朝鮮半島の青銅器時代の製作手法で作られていたのである。石器においても石包丁^{いしほうちょう}、太形蛤刃石斧^{ふとがなはまぐりばせきふ}、柱状片刃石斧^{ちゅうじょうかたばせきふ}、磨製石鎌^{ませいせきぞく}などいわゆる大陸製石器^{たいりくせいせっき}が全て揃っており、他地域ではほとんど認められない現象であった。このように田村遺跡の新知見は、従来の常識を幾重にも覆す内容を有していたのである。求心的な構造を持つ集落形態は縄文文化からの伝統として捉えることができようが、竪穴建物やそこで使う土器・石器は朝鮮半島の要素の極めて強いものである。これまで弥生文化の成立地として考えられてきた福岡平野など玄界灘沿岸^{げんかいなだ}の諸遺跡とは異なった様相を示している。田村遺跡は、弥生文化成立期の「田村タイプ」として位置付けられよう。弥生文化の成立に再考を迫るものである。

(出原 恵三)

特別寄稿 1

「境界」に位置する弥生時代の田村遺跡

禰宜田 佳男(大阪府立弥生文化博物館 館長)

弥生文化の伝播

田村遺跡では朝鮮半島に分布する松菊里型住居が検出された。弥生前期初頭のことである。そして前期中葉には内環濠が断面U字形、外環濠が急角度の断面V字形の環濠集落が成立した。

この遺跡は、日本海側や瀬戸内海側の遺跡より伝播してきた大陸文化をストレートに受容した。そして、松菊里型住居は海伝いで和歌山県堅田遺跡へ波及させたのだった。

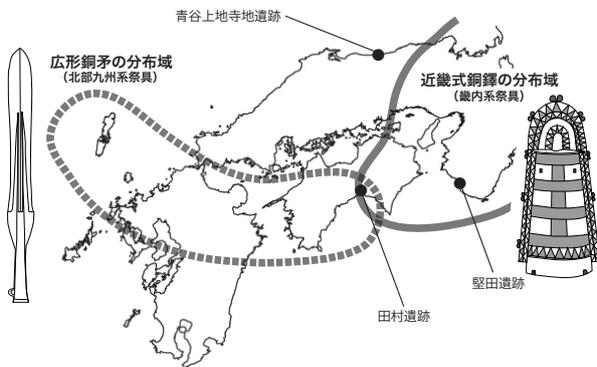


弥生前期の外環濠断面

銅鐸と銅矛の共存

田村遺跡では弥生中期に扁平鈕式銅鐸と中広形銅矛、後期に近畿式銅鐸と広形銅矛が出土した。一遺跡で畿内系青銅祭器と北部九州系青銅祭器を保有する稀有な事例だ。両者が出土することについては、畿内地域と北部九州地域の政治勢力の「対立」「対峙」と理解する見解が多くある。が、多彩な遺物が出土する遺跡は、地理的な「境界」に位置することがある。鳥取県青谷上寺地遺跡はその代表例だが、田村遺跡もそれにあてはまる。だとすれば、両地域の首長は各々の要因があって青銅祭器を配布したことになる。

畿内地域の首長にとっては鉄器の入手ルート確保という意味が考えられよう。鉄器普及が進行した後期以降は特に欠かせない点である。一方、北部九州地域の首長が求めた文物を想定することは難しい。想像の域を出ないが、“対大陸との交渉においてより遠隔地の集団と関係をもつ必要があった”という仮説を提示しておきたい。このようにして、瀬戸内地域をはじめ両地域以外からのモノを含む物流の拠点になったのであった。



広形銅矛と近畿式銅鐸の分布圏（概念図） ©2020禰宜田



田村遺跡出土の銅矛

太平洋ルートの衰退

田村遺跡は後期中葉に突如として廃絶した。これについては瀬戸内海ルートが停滞し、日本海ルートが活発化したことと連動していたという興味深い意見がある。そしてその後、終末期から古墳時代には再び瀬戸内海がメインルートとなり、日本海ルートも機能したが、縄文時代から活発だった太平洋ルートは再開することはなかった。田村遺跡の終焉は、大陸を見据えた社会変化の中で評価されるべきである。

小稿では、弥生時代の田村遺跡を畿内地域と北部九州地域の「境界」に位置することを評価する視点を示した。土器・石器を含め総合的な検討が進められることに期待したい。

高知自動車道と奥谷南遺跡の調査

南国市岡豊町に位置する奥谷南遺跡は、高知自動車道の南国～高知間の工事に伴い発掘調査が行われた。当初はチャートの巨大な岩塊の岩陰が存在する縄文時代の遺跡とされており調査が進められたが、周辺部の尾根や山腹から弥生時代の墓坑群や古代寺院に関連する瓦窯跡、近世の儒墓などが新たに確認された。

さらに1996年には岩塊岩陰部の発掘調査において旧石器時代の石器が発見された。元々2個の岩塊が存在していたが、戦後に1個は破壊されており、調査時には1個の岩塊のみが残されていた。調査では岩塊の岩陰部から前庭部にかけて遺物が出土しており、上層部の黒褐色土からは縄文時代草創期から早期の土器や石鏃などの石器が出土し、旧石器は黒褐色土下層から下の黄褐色土にかけて出土している。

出土した旧石器には、ナイフ形石器約50点、角錐状石器約15点、槍先形尖頭器約28点、細石刃約300点、細石刃石核約100点、さらに搔器や削器、多量の石核、剥片などがあり、石器の器種や出土量は他の県内の旧石器遺跡と比べても圧倒的に多く、高知県を代表する旧石器時代の遺跡である。遺物の出土層位は、旧石器時代終末期の細石刃が上層の黒褐色土下部、下層の黄褐色土からナイフ形石器などが出土しており、部分的には混在する石器もあるが、旧石器が層位的に確認できた県内唯一の遺跡となっている。

旧石器時代の遺跡の多くは丘陵や段丘など開けた場所に存在するが、奥谷南遺跡では岩陰に立地しており、縄文時代においても引き続き使用されていることから居住に適した場所であったと言える。岩陰や遺跡の周辺部にもチャートの露頭が存在しており、石器の素材であるチャートの入手が容易であることが重要な居住条件の一つであったと推定され、奥谷南遺跡は通常のキャンプサイト

であると同時に石材原産地に立地する石器製作遺跡であったとも考えられる。



奥谷南遺跡の全景



細石刃・細石刃石核



ナイフ形石器

(森田 尚宏)

奥谷南遺跡の旧石器 ～旧石器時代の道具～

旧石器時代は人類が東アフリカで出現した約400万年前から16,500年前までの極めて長期にわたる時代であり、人類の歴史の大部分を占めている。その大半は原始的な石器が使用された期間であり、進歩は緩やかなものであった。しかし現生人類でありホモサピエンスの出現とともに急速に発展し、多様な石器からなる旧石器文化が生まれている。

日本における旧石器時代の遺跡は約4～5万年前まで確認されており、主要な石器としてナイフ形石器が長期間に渡り日本国内に広く分布している。ナイフ形石器は石器の縁辺に刃潰し加工を施すことにより刃部を作り出しており、その機能はナイフのように切る道具であると同時に槍先に装着して使用されたものと考えられている。加工部位や形態などから各地域に特徴的なナイフ形石器が見られ、型式分類などにより時期や地域での石器文化の研究が進められている。また、石器に使用される石材には黒曜石やサヌカイトなど原産地を中心に広域分布する特徴的な石材の他、チャート、頁岩（げつりゅうもん）、流紋岩など在地の石材が使用されており、高知県中央部では奥谷南遺跡（おくたにみなみ）を含めチャート、県西部では頁岩が主要な石材となっている。

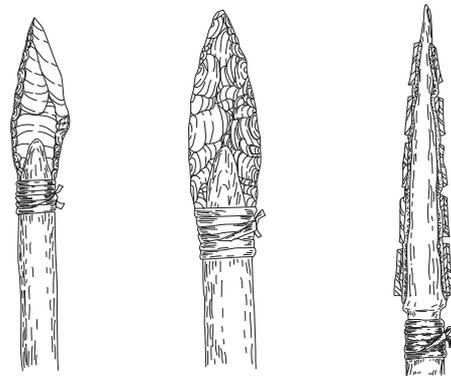
細石刃（さいせきじん）は旧石器時代の終末期に出現した石器であり、小形の石刃を木器や骨角器（こつかくき）のヤリに埋め込んで使用する組み合わせ道具である。尖頭器（せんとうき）やナイフ形石器と違い、破損した部分を取り替えることができ、より機能的な石器として進化している。細石刃文化にはシベリアから北海道を通じて東日本に広がった湧別技法（ゆうべつ）と呼ばれる船底形細石刃石核（ふなぞこがたいさいせきじんせきかく）を持つ文化が分布しており、西日本には円筒形・円錐形の細石刃石核を持つ文化が広がっている。奥谷南遺跡は円筒・円錐形石核を持つ細石器文化に含まれており、伊勢湾沿岸や徳島県南部から九州南部の太平洋に面した地域との文化的な関連性も考えられている。

旧石器時代にはナウマンゾウなどの大型動物を狩猟対象とした移動生活が営まれており、住居跡などはほとんど発見されていないが、奥谷南遺跡では岩陰を居住地とした長期滞在が考えられ、ナイフ形石器や細石刃などのチャート製の石器製作を行いながら周辺地域を移動し、狩猟生活が行われていたのであろう。

(森田 尚宏)



奥谷南遺跡の調査風景



ナイフ形石器・尖頭器・細石刃の槍先復元図

高知自動車道と居徳遺跡群

居徳遺跡群は土佐市高岡町居徳に所在し、高知平野の西部を流れる仁淀川の右岸に形成された後背湿地に浮かぶ残丘に立地する。高知自動車道建設に伴い1997・98年度に延長約700m、面積25,600㎡の発掘調査が行われ、縄文時代晩期を中心に縄文時代後期から古墳時代にかけて営まれた大規模な遺跡であることが明らかとなった。

残丘の尾根上には、縄文時代晩期の集落が形成されていたものと考えられるが、削平により竪穴建物など集落関連の遺構を確認することはできなかった。しかし、残丘の斜面部から晩期土器を中心に大量の遺物が出土している。遺物量から見て相当大規模な集落が形成されていたことが考えられる。

調査区の東北部からは晩期中葉の土器がまとまって出土し、西南部からは晩期末から弥生前期の土器が出土していることから、晩期集落が東北部から南西部へと変遷したことがわかる。

調査区の東北部からは晩期中葉の土器がまとまって出土し、西南部からは晩期末から弥生前期の土器が出土していることから、晩期集落が東北部から南西部へと変遷したことがわかる。

また低湿地であることから、漆製品(木胎漆器)、鋏などの木製品、人骨、獣骨などの有機物が数多く出土しており、縄文晩期の文化や生活の内容を豊かに復元することができる。

木胎漆器はクスノキ材を用いて作られた容器の蓋と考えられており、隆帯や突起が陽刻されその上に花卉文様が赤漆で描かれた優品である。縄文晩期の西日本に優れた漆文化のあったことを示している。2点の鋏は、平面形が紡錘形をしており、弥生時代に一般的に認められる方形のタイプとは異なるもので、国内最古の鋏として位置付けられる。また、県下で初めての土偶も出土している。

これまで高知平野は、縄文晩期の資料に乏しく、晩期の歴史像を描くことができなかったが、居徳遺跡の調査によってその空白が埋められた。

また晩期末の土器とともに弥生前期土器が出土するという二重構造が認められることから、田村遺跡とは異なる過程を経て弥生文化の形成がなされたことを示している。

古墳時代では、朝鮮半島製の陶質土器や初期須恵器を用いた大規模な水辺の祭祀跡を確認することができた。発掘調査の結果、居徳遺跡は、仁淀川流域の原始・古代史を雄弁に語る考古資料を飛躍的に充実させたのである。



木胎漆器



国内最古の鋏

(出原 恵三)

縄文時代晩期・居徳遺跡の世界

居徳遺跡で出土した大量の縄文時代晩期の遺物は、それまでほとんど空白であった高知平野の縄文の歴史像を豊かに復元するとともに、仁淀川流域の高知平野西部には東部とは異なる独特の土器文化が形成されていたことを明らかにした。

縄文時代の終わり頃、居徳遺跡には地元で作られた大量の深鉢や壺、鉢などの土器とともに東北や北陸地方から持ち込まれた搬入土器(搬入品)が数多く出土している。最も注目されているのは東北地方の大洞式土器と呼ばれている装飾された壺である。口縁部が冠状をしているところに特徴があり、胴部は隆帯による区画文が施され見事な赤漆が塗られている。本場の東北でもあまり出土例のない優品である。

搬入土器で最も多くを占めているのは北陸系の土器である。壺や鉢、蓋などが見られ、何も繊細な文様で飾られ丁寧な研磨が施されている。赤漆が塗られているものも少なくない。これらの搬入品は、煮沸など日常生活で用いる土器ではなく「祭祀」など特殊な用途に供せられたものと考えられる。搬入品を模倣して在地で作られた土器も見られる。なぜ、このような土器が遠路はるばる高知にまで運ばれてきたのだろうか。搬入品は地域間の「交換材」「贈答品」などの解釈がなされており、模倣品については移住者が製作した可能性も指摘されているが、何よりも居徳遺跡が北陸地方と密接な交流のあったことを示している。大洞式土器も北陸経由でもたらされたことが考えられよう。

近年、西日本の縄文晩期における拠点的な性格を帯びた遺跡には、このような搬入品の見られる例が知られるようになってきた。このような現象は、縄文晩期、すなわち弥生文化の成立前夜の日本列島には東西を貫くダイナミックな縄文晩期社会のネットワークが形成されていたことを意味していよう。居徳遺跡の搬入品の質・量ともに見られる豊かさは、他地域の遺跡を凌駕している。



確認された流路跡・低湿地



大洞式土器（搬入土器）

漆器の出土などともあいまって、居徳遺跡が西日本晩期社会の中で重要な役割を担っていたことが想定される。一方、田村遺跡の所在する高知平野の東部にはこのような晩期社会の形成は認められない。このことは弥生文化が縄文晩期社会のネットワークの外で生成されたことを示している。弥生文化の成立期、高知平野の西と東とで対照的な文化相が形成されていたことは実に興味深い。

(出原 恵三)

特別寄稿 2

縄文文化のなかの居徳遺跡 ～土佐市居徳遺跡出土の亀ヶ岡式土器～

関根 達人(弘前大学教授)

「仁淀ブルー」の愛称で知られる仁淀川の下流右岸、土佐市高岡町にある居徳遺跡群は、縄文から弥生への移り変わりを考える上で全国的に注目される遺跡である。

高知自動車道建設に伴う発掘調査では、殺傷痕のある人骨や国内最古とされる鋏、精巧な蓋形の漆器等とともに、東北地方に分布する縄文晩期の亀ヶ岡式土器の大型壺が発見された。

この壺は、亀ヶ岡式土器でも後半の大洞 A1 式に比定され、約 2,500 年前のものである。

立体的な口縁部の装飾と胴部に配置された隆線による縦区画文が特徴的な壺は、東北地方のなかでも岩手県南から福島県北にかけ東北地方中部を主要な分布域とする。居徳遺跡出土のものは胴部の最大径が約 33cm、赤漆と黒漆による塗り分けが行われており、この手の壺のなかでも大ぶりできわめて精巧である。長年本場の亀ヶ岡式土器を観察してきた私には東北地方でつくられたものに見える。居徳遺跡からは同時期の北陸系の土器がややまとまって出土していることから、北陸経由でもたらされた可能性が考えられる。

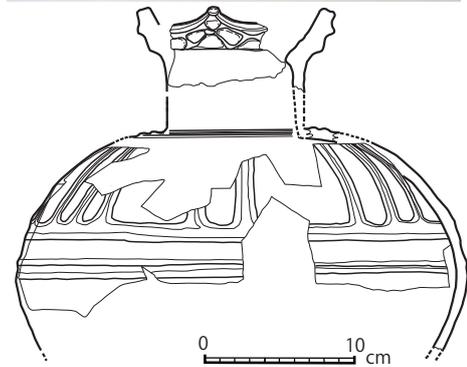
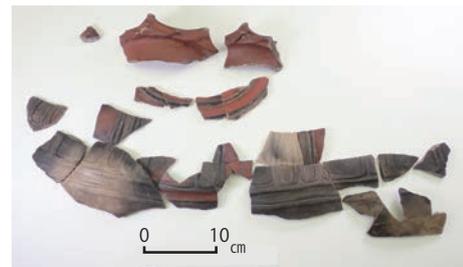
しかし、この手の土器の分布の中心に位置する宮城県仙台市から居徳遺跡のある土佐市までは直線距離にして約 850km。交通手段の発達した現在でも、仙台駅から居徳遺跡近くの高知自動車道土佐インターチェンジまで新幹線や高速バスを乗り継いで約 10 時間、空路を利用した場合でも約 8 時間はかかる。

この土器はいったいどこでつくられたのであろうか。

筆者らは土器の胎土に含まれる火山ガラスの分析に取り組んでいる。火山ガラスの化学組成は、火山ごとに違い、同じ火山でも噴火のたびに微妙に異なる。胎土中の火山ガラスを調べれば、土器がいつ頃どのあたりで作られたのか推定できる。2017 年にはこの手法により沖縄県北谷町平安山原 B 遺跡から出土した大洞 A1 式の台付浅鉢が、北陸・中部高地出身者の手により西日本(九州の可能性が高い)で製作され、沖縄に運ばれたことを解明した。

西日本で弥生文化が成立する板付 I 式期には、居徳遺跡や平安山原 B 遺跡のように装飾性に富む大洞 A1 式の土器が西日本から出土する現象が見られる。それらは西の初期弥生文化と東の晩期縄文文化と関係を考える重要な手がかりとなる。

目下、私たちは発掘調査報告書に掲載された漆の塗膜分析用のプレパラートを用いて火山ガラス分析を行っており、問題の大型壺の製作地がまもなく判明する。



居徳遺跡出土・大洞 A1 式の大型壺

(上図は、報告書掲載図を筆者加工)

特別寄稿 3

シンボリズムで読み解く縄文人の世界観

大島 直行（人類学者・札幌医科大学客員教授）

人間の本能と呼ばれている身体特性は、食欲、睡眠欲、性欲の3つです。

考古学では、そうした本能と文化的な創造との区分があいまいなままに語られています。例えば、人間であれば、だれもが結婚や家族を持つという考え方や、村や住居に住むことが、あたかも普遍的な心情であることのように語られていることを考えてみれば、それは明らかです。しかし、どうでしょう。

人間が家族や村をつくるのは、集団生活をうまくやるために考え出したシステムであって、決して普遍的な心性のなせる業^{わざ}ではないのです。つまり本能ではなく、あくまでも文化的な創造なのです。人口が増え社会が複雑化した現代においては、食欲や睡眠欲、性欲を自由に満たすことはできなくなりました。社会生活を円満に行うために、マナーやモラル、ルールを作り出すことで、本能は抑制する必要に迫られているのです。現代社会においては、考古学者だけでなく多くの人たちが、そうしたマナーやモラル、ルールによる抑制生活に慣れてしまい、それが人間の本能だと考えてしまっていないでしょうか。果たして縄文時代に、家族や村があったのでしょうか。

人間の本能は、古くから先述した3つが存在すると考えられてきました。私はこの数年間、考古学的な考えを振りかえる中から、もう一つの本能のあることに気づきました。それは「再生シンボリズム」です。いわゆる民俗誌の中には、4つ目の本能を基盤としたエピソードがたくさんあります。

柳田国男の『遠野物語』^{やなぎたくにお とおの}に登場するオシラサマやザシキワラシは、それ自体が実在するのかどうかは問題なのではなく、遠野の人たちは、なぜザシキワラシやオシラサマという妖怪が必要だったのかということこそが、明らかにすべき問題だと気づき、柳田は、それまでの歴史学から切り離して民俗学を立ち上げたのです。単にオシラサマやザシキワラシのような妖怪を探し出し分類することは、



居徳遺跡（土佐市高岡町）から見つかった土偶

地域や時代別に整理できたとしても、それをいくら極めたところで、そこから人間とは何かを明らかにすることはできないのです。

今回の特別展に関係する秋の講演では、従来の形式論や編年論、分布論、材質論から離れ、縄文人が作り出した「形」の意味を解釈してみようと思います。その際、解釈の基盤をなすのが、性欲、食欲、睡眠欲などの本能であり、もっとも重要なのは第4の本能であります「再生シンボリズム」なのです。

中村宿毛道路と中筋川流域の中世遺跡群

中村宿毛道路は、四万十川支流の中筋川とほぼ平行に建設されており、この道路建設や河川改修に伴って1980年代から1990年代にかけて多くの遺跡が発掘調査されている。

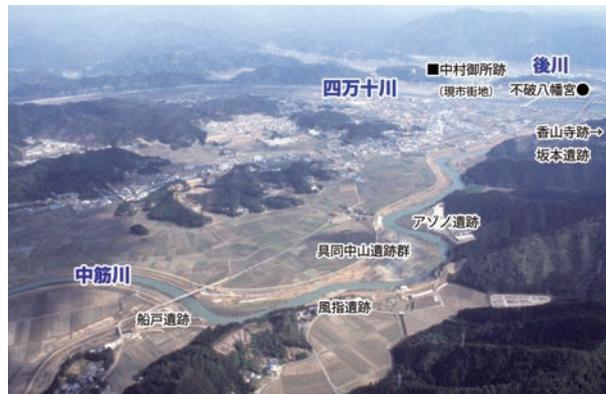
四万十川と中筋川が合流する地点の南西丘陵上には、金剛福寺の末寺である香山寺が中世に建立されており、麓下では古代から中世にかけての拠点的な集落が形成される。注目される遺跡としては、坂本遺跡、具同中山遺跡群、船戸遺跡、アゾノ遺跡、風指遺跡などがある。

坂本遺跡は、香山寺の東麓に所在しているが長宗我部地検帳では「寺中 堂床」となっており南仏堂が所在していたと考えられる。一條氏との結びつきが強い寺院跡であり、堂宇の屋根には同遺跡で焼かれた瓦が葺かれている。この瓦窯は、現在は地中に保存され県指定文化財となっており、調査時には遺構を型取りした原寸大模型を作成しており今回展示している。

具同中山遺跡群は古墳時代の中期から後期を中心とした河川の祭祀跡として知られるが、中世になると大型の掘立柱建物跡や多くの国外や県外産の陶磁器類が出土し、荘官のいた幡多庄の中心地と考えられ、川湊としての性格も持ち合わせていた。隣接する船戸遺跡は、縄文時代や古代でも知られるが、中世では県外からの搬入品とともに川舟の石の碇が出土しており、地名からわかるように物資が集散する船着場の機能をもった遺跡である。

また、アゾノ遺跡では、四国で初めて地震痕跡の噴砂を発掘調査で検出した。当時、地震史料が少なかった室町時代後期の明応地震について、この地域でも発生していたことを裏付けるとともに南海トラフ地震関係では考古学的調査で四国初の発見であった。

中筋川と四万十川の合流地点は、中世前期は幡多庄の中心地であったと考えられる。しかし、14世紀前半頃から具同中山遺跡群は墓地化しはじめ、散村になりはじめる。その後、14世紀後半になると後川と四万十川に挟まれた現在の四万十市街地辺りに集落が出現しはじめる。市街地付近の調査では、中世期の集落遺構や遺物が多く見つかっており、一條氏は応仁の乱を避けて中村に下向した際に、集落の中心に館・中村御所を構えたと考えられる。



中筋川流域の中世遺跡群



具同中山遺跡群の大型掘立柱建物跡

(松田 直則)

土佐市バイパスと高岡地域の諸遺跡

現在の土佐市街地を東西に横断する土佐市バイパスの建設に際しては1996年度以降に本格的な発掘調査が実施され、土佐市高岡の林口遺跡、天神遺跡、光永・岡ノ下遺跡、野田遺跡などからは、鎌倉時代以降の濃密な中世遺跡が確認されている。

林口遺跡からは、集落跡や流路跡などから、畿内和泉地域の瓦器椀や播磨地域の東播系須恵器などの豊富な搬入土器や、青磁・白磁などの貿易陶磁器、石鍋、漆器椀や下駄などの木製品が出土している。

なかでも同遺跡から出土した蝙蝠扇や光永・岡ノ下遺跡から出土した湖州方鏡などは、対外的な交流を示すもので、同地域を支配した武家の力を示す出土品である。高岡地域は、中世の高岡庄にあたり、蓮池城を中心に、集落や市などの町並みの広がる賑やかな場所であったと想像され、鎌倉時代から室町時代にかけては、蓮池氏や大平氏、吉良氏といった有力武家の関係した地域と考えられる。

また、同地域は仁淀川とその支流にあたる波介川に面し水運にも恵まれている。仁淀川河口西岸の土佐市新居では、波介川の河川改修にあたり2005年度から上ノ村遺跡の発掘調査が行われ、近世前期の護岸堤防などが確認されている。同遺跡では、中世の遺構も数多く確認されており、遺跡一帯は中世から続く、川津・川湊と考えられ、高岡地域の諸遺跡で出土した搬入品の多くも仁淀川河口にあった湊を経由して持ち込まれたと想定される。



上ノ村遺跡の近世護岸堤防



蓮池城跡から見た土佐市高岡



中世の集落遺構（野田遺跡）

そうした高岡地域では、高知自動車道関係の調査で、仁淀川西岸に位置する天崎遺跡から埋納された弥生時代の中広形銅矛が4本出土している（中表紙 口絵参照）。つまりは、縄文遺跡で知られる居徳遺跡群の存在を含め、仁淀川の恩恵や高岡地域の地理的重要性は、中世より遙か以前から人々の間に認識されていたと言えるのではないだろうか。

（山崎 孝盛）

特別寄稿 4

中世の遺跡から見た土佐の風景

鋤柄 俊夫(同志社大学教授)

土佐の中世を語るときによく使われる言葉が「海の領主」である。南海道の海上交通に注目したこの表現は確かに正鵠を得ている。ただし近世の遍路札所関係の調査に携わってきた中で感じたのは、その特質が海だけでなく川も山も一体化した社会にあり、そのような中世の風景には土佐の至る所で出会うことができる。それは極めて貴重な国のイメージである。

それを最も象徴的に示すのが仁淀川流域の遺跡群であろう。仁淀川河口近くの上ノ村遺跡に接する波介川は高岡の蓮池城跡のすぐ南に繋がり、城跡に登り東を見下ろせば、多くの中世の館跡が発見された京間、野田、光永・岡ノ下、天神、林口の遺跡群が並ぶ。

注目すべきは、上ノ村遺跡と高岡の遺跡群が有機的に繋がっている点である。上ノ村遺跡は言うまでもなく南海道の広域流通を担う河口港であり、高岡はその河口港と波介川で繋がった典型的な中世都市である。その関係はあたかも平清盛の福原と古代以来の畿内の玄関口である大輪田泊の関係に対比でき、平氏の館が軒を連ねた福原が高岡で、上ノ村遺跡が大輪田泊にあてられる。その意味で林口遺跡から熱田大社が所蔵する扇と同じ蝙蝠扇が出土したのは当然で、高岡は日本を代表する中世都市のひとつだったのである。

さらにこのような中世の風景は、大平氏の姿を辿ることで仁淀川を遡り小村神社や横倉宮にまで繋がる。熊野神は唐から九州の彦山と仁淀川の源流である伊予の石鎚峯を経て紀伊に渡ったと言われるが、横倉宮をはじめ土佐の各地にその痕跡を残す。このように海と川と山が一体化した土佐の中世社会は、それ故、北部九州と南海道が交差し、紀伊を経由して京や東国につながるダイナミックな情報ネットワークの中心でもあったと言える。

仁淀川流域でみられるこの風景は、西園寺氏の宇和に接する一條氏の中村と四万十川河口の下田の関係にもつながり、源希義関係の事績が多い物部川や香宗川の流域でもみられ、高知市を流れる鏡川や国分川流域は言うまでもない。かつて網野善彦氏は信仰と商人を主人公にダイナミックな中世世界を描き出した。土佐の中世遺跡が見せる風景は、まさにその中世世界そのものであり、近世の四国遍路につながる聖地としての土佐の源流もそこに見ることができると思う。



上ノ村遺跡から見た仁淀川



蝙蝠扇（林口遺跡）

高知西バイパスと天神溝田遺跡・バーガ森北斜面遺跡

高知西バイパス、いの町^{えだがわ}枝川^{はかわ}～波川区間の建設に伴い2007年～2012年まで発掘調査が行われ、弥生時代のバーガ森北斜面遺跡をはじめ、弥生時代から中近世にかけての複合遺跡である天神溝田遺跡、奥名遺跡など宇治川沿いの丘陵部の遺跡が調査対象地となった。

天神溝田遺跡では、2008年～2009年度に本格的な調査が行われ、調査では集落遺構と共に弥生時代後期後半の土器、壺や甕、鉢、高杯が見つかっている。奈良時代から平安時代の遺物は、土師器の杯や皿、甕、須恵器の杯や皿、甕などを中心に、畿内で生産された黒色土器や緑釉陶器などの搬入品もみられた。他には、鉄滓や鞆の羽口など鍛冶に関する遺物も出土している。同遺跡は、中世の音竹城跡の麓に位置し、鎌倉時代から室町時代にかけての遺構・遺物も確認されている。土師質土器、瓦質土器などの在地土器や、備前焼、常滑焼、中国産の青磁、白磁、青花などが出土している。なかでも特筆すべきは、屋敷地の境界にあたる地点で確認された埋納遺構である。この埋納遺構は、備前焼の壺の中に土師質土器皿20枚、貨銭393枚を納め、口の部分を和鏡で封印された状態で地中に埋められていた。壺の中身を詳細に調べると700粒以上の種実(アワ)と藁状の植物を紐状に編んだ自然遺物が入っており、一部の皿は口と口とを合わせて中にアワが入れられていた。和鏡には州浜や松樹、双雀の巢が文様に使われており、全国的に見ても貴重な事例である。

バーガ森北斜面遺跡は、弥生時代中期末～後期の遺跡で、高所に立地していることから「高地性集落」と呼ばれる。2010年～2011年にかけては大規模な調査が実施され、竪穴建物跡、土坑などが多数みつき、丘陵上の居住域の立地や環境などを知る事ができた。出土土器については、西南四国地域に分布する甕が多く(西南四国型甕)、凹線文(瀬戸内タイプ)を伴うものも出土しており、他地域との



バーガ森北斜面遺跡の高地性集落



天神溝田遺跡遠景、左は宇治川



中世埋納と内容物

の交流が窺える。また、石器も多く見つき、石包丁や石斧の他に大型の石鏃や投弾などの武器類も出土した。その他には、炭化米31,890粒、炭化種実(イチイガシ、アカガシ、コナラなどの堅果類)349粒が出土し、放射性炭素年代測定の結果、歴年代較正值はcal BC 95-cal AD 50 前後という弥生時代中期後半から後期前半代の年代測定の結果が得られている。

(吉成 承三)

向山戦争遺跡の調査

戦争遺跡は、私たちの最も身近にある遺跡である。現代社会を理解する上で、知っておかなければならない重要な歴史が刻まれている遺跡であるにもかかわらず、戦後長きにわたって文化財として取り扱われることなく放置されてきた。しかし1995年に文化財保護法の指定基準が改訂されて以後、次第に戦争遺跡も前近代の遺跡と同列に扱われるようになり発掘調査の対象ともなってきた。

向山戦争遺跡は本格的な戦争遺跡の調査としては高知県で最初の事例である。南国市伊達野に所在する向山の尾根部及び北斜面に構築されたアジア・太平洋戦争末期の「本土決戦陣地」遺構群である。2008年度に高知南国道路建設に伴って発掘調査を実施した。対象面積は4,000㎡を測り、一つの戦争遺跡としては全国的にも最も大規模な調査であった。

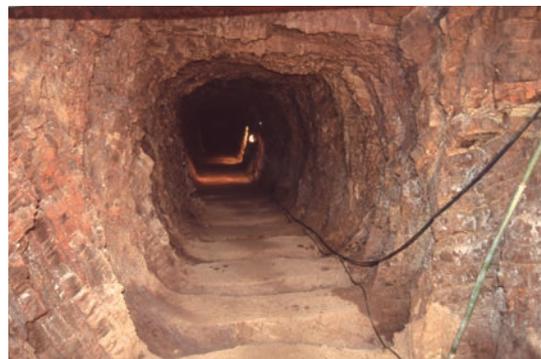
海岸線から約3km、海拔65mの尾根上には、平面が方形ないし楕円形の長軸2～4m、深さ2～3mの^{たてこう}堅坑が4基設けられており、各堅坑は幅1mの交通壕で結ばれていた。堅坑の周辺からは銃や釘が出土していることから堅坑壁面は板が張られていたものと考えられる。

山腹には伊達野から稲生に抜ける延長77m、幅2m、高さ2mの貫通坑道^{かんつうこうどう}が掘られ、坑道の床、壁、天井には内には90cm間隔で坑木を埋める溝が掘られていた。坑道の中程に坑道と並行するように延長19.5mの部屋が設けられており、2本の通路で結ばれていた。坑道からも銃や釘が多く出土している。銅線やガイシも出土していることから電気が引き込まれていたことが考えられる。

北斜面部では横穴壕19基、堅穴状遺構10基、平場状遺構2基、土坑1基を確認した。^{よこあなこう}横穴壕は陥没しているものもあるが、長さは7m～16.5mを測り、ほとんど例外なく入り口には扉痕跡、床面には坑木溝が確認された。防衛省蔵の「高知方面配備要図」によれば、当遺跡付近は第205師団^{しだん}の迫撃砲部隊が配備されている。尾根の堅坑は同部隊の観測所、斜面部の堅穴状遺構や平場遺構は迫撃砲陣地、横穴壕群は保管庫や居住区として用いられ、貫通坑道は、部隊の移動に使われたものと考えられる。戦争末期、高知平野は大本営によって米軍上陸の有力候補地の一つとして位置付けられていた。香美市新改には軍司令部が置かれ多くの部隊が配備されたのである。沖縄戦が始まった1945年4月頃から本格的な陣地構築が行われるのである。これらの陣地は実際に使われることはなかったが、明治以降、国の方針として進められてきた富国強兵路線^{ふこくきょうへい}の一つの帰結として捉えることができよう。



向山戦争遺跡周辺の眺望



調査で確認された坑道跡

(出原 恵三)

南国安芸道路と東野土居遺跡・高田遺跡などの調査

2010年以降の主な発掘調査では県東部域をつなぐ高知南国道路や南国安芸道路関係の調査がある。同事業では田村遺跡群をはじめ幾つかの遺跡が調査対象となっており、そのなかでも香南市野市町に位置する東野土居遺跡や高田遺跡などの古代の調査成果が注目される。

東野土居遺跡では、方位の揃う複数の掘立柱建物跡と共に、奈良時代の畿内産土師器や円面硯、複弁蓮華文軒丸瓦が出土している。この軒丸瓦は作りや胎土などから、畿内で製作された可能性があり、畿内産土師器と共に都との直接的な繋がりを示す資料と言える。その他、同遺跡では香宗我部氏に関する中世の屋敷跡や館跡なども確認された。



複弁蓮華文軒丸瓦（東野土居遺跡）

高田遺跡では、奈良時代に機能したと考えられる道路の遺構（道路幅約10.4m）を確認している。今後の周辺調査の動向を見守る必要があるが、その規模からは太平洋岸に沿って東西に延びる古代南海道の可能性が想定される。加えて、今回の道路遺構が偶然にも現在の高速道路予定地の地下から見つかった点は実に興味深い。

同遺跡では、方位の揃った奈良～平安時代の掘立柱建物跡が約20棟ほど確認され、畿内産土師器を真似た模倣土器、円面硯、墨書土器、緑釉陶器などが出土している。北方約500mにある下ノ坪遺跡では大型掘立柱建物群と八稜鏡、緑釉陶器火舎などが出土しており、両遺跡の関係から幹線道と物部川の水運が交差する地点に官衙地帯が設けられたと考えられる。

その他、最近の調査では、南国市教育委員会の土佐国分寺跡の調査で古代寺域の範囲が現在の国史跡範囲より大幅に広がる可能性が示されたことや、県道等に関係した南国市の若宮ノ東遺跡の調査で溝や塀に囲まれた県下最大級の大型掘立柱建物跡が確認され、郡衙やそれに先行する評衙に関連した古代の中核的な官衙施設の可能性が示されるなど、古代土佐国の歴史像を刷新するような目覚ましい調査成果が蓄積されつつある。

（池澤 俊幸・山崎 孝盛）



高田遺跡の道路遺構（中央下）と周辺



若宮ノ東遺跡の大型掘立柱建物跡

石垣が語る高知城の歴史

高知城跡については、佐伯文書によると、南朝方の大高坂松王丸が居城し北朝方と激戦を展開したと記されており、伝御台所屋敷跡が発掘調査され南北朝期の遺物が出土していることから、この頃に城として利用されていたことがわかる。その後、永禄年間(1558-1570)頃に長宗我部氏の支配下に入り、天正16年(1588)頃には元親が岡豊城からこの城に拠点を移したことが言われている。慶長8年(1603)に山内一豊が本丸と二ノ丸を完成させ入城しているが、当時の遺構は今だ秘密のバールに包まれている。

近年始まった石垣整備に伴う発掘調査で、その謎が少しずつ明らかにされ始めている。2000年には、三ノ丸の石垣周辺部において試掘確認調査が実施され、調査の結果、現存する東側石垣の裏側8mの地点で、現存石垣より古い時期に構築された旧石垣が検出され、裏込から桐紋軒丸瓦も出土した。

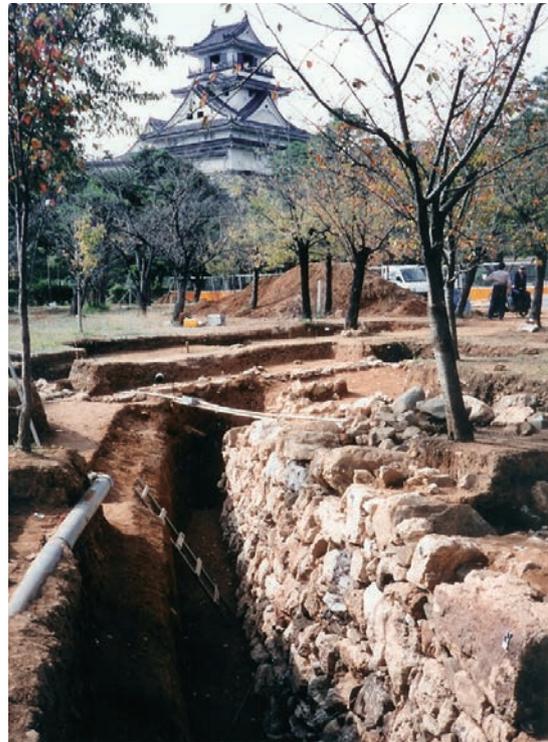
高知県内で確認された石垣の中で、三ノ丸旧石垣は最も古いものである。天正15～16年頃に構築された石垣と考えられているが、もう少し遡る可能性もある。長宗我部元親が豊臣傘下に入り、始めて豊臣秀吉から石垣工人を派遣してもらい構築した石垣と考えられる。その後、浦戸城や中村城に石垣を構築し、土造りの城から石造りの城へと変わる。

三ノ丸の調査においては、長宗我部氏が石垣と櫓を構築している事実が確認できた。山内一豊が土佐に入国した時、大高坂山に築かれていた三ノ丸石垣と櫓を含む長宗我部期の遺構は、一豊の両目にしっかりとその姿が映っていたはずである。本丸にはどのような建物があったのかわからないが、長宗我部地検帳では、「大テンス」の記載が見られ大天守が存在していた可能性もあるが、慶長8年段階の本丸と二ノ丸の姿はまだ見えてこない。

平成16年(2004)から始まった三ノ丸石垣解体調査で、2代藩主の山内忠義が長宗我部期の石垣を解体し現在の石垣を構築していることがわかった。また、長宗我部期には三ノ丸全体ではないがその一部を曲輪として利用していたことがわかった。現在の三ノ丸の姿になったのは、慶長11年(1606)に忠義が北側と南側を拡張普請し、御殿を作事したことによることも判明した。

最近では、追手門矢狭間堀下の石垣や梅ノ段石垣改修に伴う調査が進み、当初石垣が構築されたから、何度も部分的に修築されながら現在の石垣になっていることもわかり始めてきた。今後も建築物や文献も含めた学際的な調査研究が望まれる。

(松田 直則)



高知城跡の三ノ丸旧石垣（長宗我部期）

埋蔵文化財センター30年の動向

埋蔵文化財センターが設立される以前は、高知県教育委員会において埋蔵文化財保護行政の一環として発掘調査が実施されていた。そのなかでも昭和55年度(1980)から開始された高知空港(現高知龍馬空港)拡張整備事業に伴う田村遺跡群の発掘調査が高知県における大規模調査の嚆矢となる。その当時、県下の市町村には埋蔵文化財専門職員は皆無であり、県教育委員会からの職員派遣により発掘調査が実施されていた。その後、昭和から平成へと変わり、当時の好景気を背景として、県内においても開発が増加の一途をたどる。これを契機に県の埋蔵文化財に関する調査体制・人員拡充が検討されることとなった。

●前半期の動向：平成2年(1990)～平成13年(2001)

平成2年度(1990)には財団法人高知県文化財団が設立され、歴史民俗資料館、美術館とともに埋蔵文化財センターを設置することとなり、新たな財団プロパー職員を2名採用し、開設にあたって準備室が置かれた。平成3年4月には県立埋蔵文化財センターと財団法人の埋蔵文化財センターが開設される。平成3年度(1991)以降の埋蔵文化財センターの発掘調査事業は、国土交通省(旧建設省)等の大規模開発に伴う調査が中心となっており、平成4年度(1992)から調査が開始された高規格道路である中村宿毛道路、平成5年度(1993)からは高知自動車道、平成6年度(1994)には国道195号改良工事(あけぼの道路)、平成8年度(1996)には高知空港拡張整備及び土佐市バイパスの調査が開始され、大規模な調査が一気に進められた。

平成11年度(1999)からは、平成10年度(1998)の高知大水害を受けて新川川の河川改修に伴う調査が開始された。これらの各事業に対応するため人員体制の拡充が図られ、平成8年(1996)に新たに財団プロパーの埋蔵文化財専門職員として5名が採用された。

平成8～10年度頃は全国的に見ても埋蔵文化財発掘調査費用等が事業量とともにピークに達する時期であり、高知県の状況も概ね連動している(図1・2を参照)。

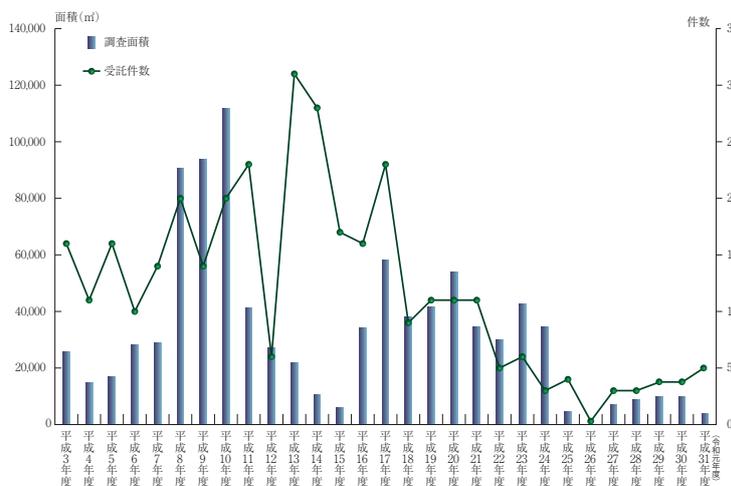


図1：埋蔵文化財センター発掘調査件数等の推移

また、埋蔵文化財センターの施設としては、発掘調査事業の拡大に伴い平成5年度(1993)には国庫補助を受けて南館が建設され、平成13年度(2001)には大規模調査であった高知空港拡張整備に伴う田村遺跡群や土佐市バイパス事業の現場終了に合わせ再び国庫補助事業により本館と収蔵庫棟が新築され、規模は小さいながらも展示会や公開講座などの広報普及事業も行えるようになった。

●後半期の動向：平成14年(2002)～令和2年(2020)

平成15年(2003)前後にはこれらの大規模開発に伴う発掘調査報告書も順次公刊され、大規模調査のピークが一端は終了したが、調整が行われていた高知自動車道(須崎-窪川)、高知市～安芸市間の高規格道路である東部自動車道(高知南国道路・南国安芸道路)、仁淀川支流の波介川河口導流事業に伴う発掘調査が平成15・16年度から本格化し、さらに、平成17年度(2005)より高知西バイパスと国道195号改良工事(あけぼの道路)、平成18年度(2006)には国道195号に接続する都市計画道路等の事業に伴う発掘調査が平成25年度(2013)頃まで継続的に行われた。

埋蔵文化財センターは平成18年度(2006)から指定管理者制度導入により高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者として施設の管理運営および広報普及事業を行うこととなり、これに伴い調査課の人員体制も新たに企画調整班が設置され、広報普及事業を本格的に対応することとなった。年3、4回の企画展示などの展示事業、講座事業、出前考古学教室などの教育普及事業、遺物の貸出しや収蔵遺物の管理など施設管理業務を県からの委託を受け、指定管理業務として実施していくこととなる。

平成26年度(2014)以降は、国事業の高規格道路である東部自動車道・南国安芸道路についての発掘調査および調査後の発掘調査報告書の公刊に向けた整理業務が行われるが業務量は縮小する。平成27年度(2015)には県事業である都市計画道路高知南国線建設に伴う発掘調査が始まり、現在まで継続的に行われている。

近年では、県事業の都市計画道路、および道路改良工事に伴う発掘調査が主な事業となっており、他には、国史跡である高知城の石垣改修工事や土佐藩主山内家墓所整備など県の補助事業に伴う発掘調査等も受託し、調査を実施している。

以上、埋蔵文化財センター30年の動向の概要を示してきた。参考として、巻末に平成2年度(1990)以降の埋蔵文化財センターの発掘調査一覧を掲載したので、あわせて参照願いたい。

(吉成 承三)

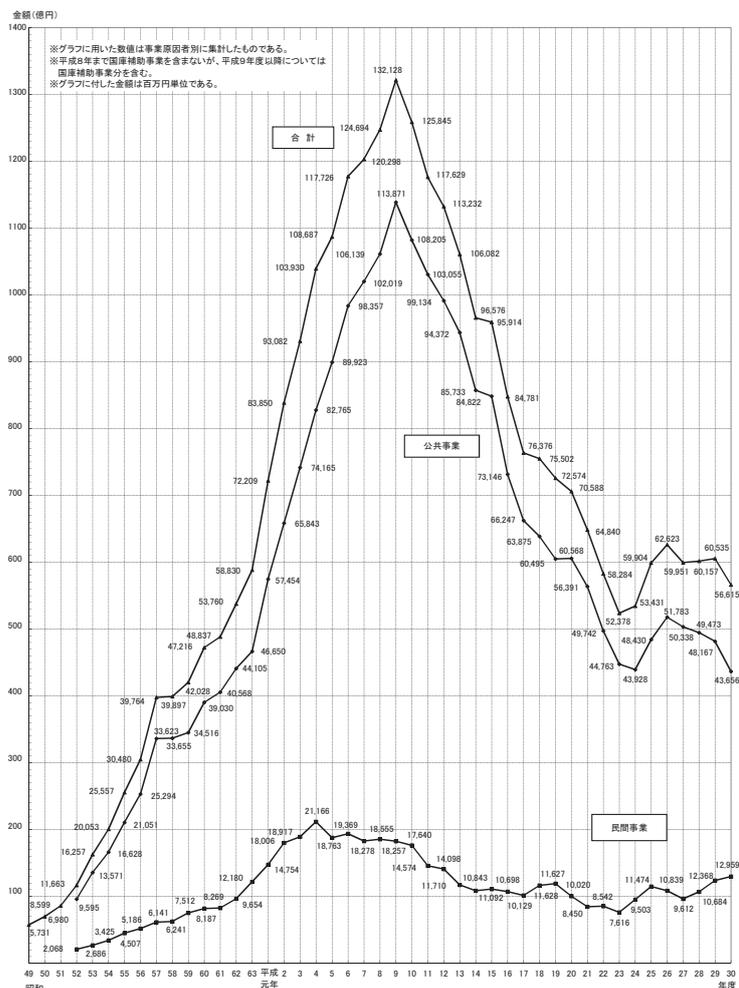


図2：文化庁調べ・緊急発掘調査費用の推移図
(文化庁 埋蔵文化財関係統計資料 一令和元年度一より転載)

付篇 発掘調査一覧

	年度別 No.	調査略号	遺跡/調査名	調査地/市町村	事業名等	事業者/地点等	本調査/試掘確認	調査期間	調査面積(約㎡)
平成2年度	1990	1	90-YH	原南遺跡	土佐山田町	学校施設整備	高知県 本調査	10~11月	924
	2	90-NHZ	東崎遺跡	南国市	店舗建設	民間 本調査	1~2月	800	
	3	-	ひびのきサウジ遺跡	土佐山田町	宅地造成	民間 本調査	11~12月	800	
	4	-	後田遺跡他	春野町	春野バイパス	国交省 試掘確認調査	10~11月	146	
平成3年度	1991	1	91-1GN	具同中山遺跡群	中村市	河川改修	国交省 本調査	5~10月	10,000
	2	91-3KM	鹿持雅澄邸跡	高知県	史跡整備	高知県 本調査	4~5月	600	
	3	91-4NO	扇城跡	中村市	宅地造成	民間 本調査	5~10月	9,000	
	4	91-10YSY	須江上段遺跡ヨコキ地区	土佐山田町	ほ場整備	高知県 本調査	10月	1,000	
	5	91-13HD	穉地遺跡	香我美町	河川改修	高知県 本調査	10~12月	500	
	6	91-11JM	十万遺跡	香我美町	LPガス施設	民間 本調査	10~11月	400	
	7	91-16TY	今成遺跡	十和村	国道改良	高知県 本調査	10月	100	
	8	91-17TC	チシ古城跡	中村市	広域農道	高知県 本調査	11~12月	500	
	9	91-22YSM	須江上段遺跡松ノ木地区	土佐山田町	電力鉄塔建設	民間 本調査	11月	1,000	
	10	91-23HK	ハザマダ遺跡キシロ地区	南国市	電力鉄塔建設	民間 本調査	11月	200	
	11	91-27KJ	秦泉寺庵寺跡	高知県	県道改良	高知県 本調査	1~3月	150	
	12	91-31NY	能茶山寮跡	高知県	マンション建設	民間 本調査	2月	130	
	13	91-32HB	王子ノ西ノ芝遺跡	春野町	春野バイパス	国交省 本調査	12~3月	600	
	14	91-18UC	浦戸城跡	高知県	公園整備	高知県 試掘確認調査	11~12月	70	
	15	91-11NS	江ノ村地区他	中村市	中村宿毛道路	国交省 試掘確認調査	9~12月	1,300	
	16	91-15NK	根ノ首遺跡	中村市	公園整備	高知県 試掘確認調査	10月	200	
	17	91-20HU	松ノ物ノ内遺跡	南国市	施設建設	民間 試掘確認調査	4~5月	160	
	18	91-5NN	野中庵寺跡	南国市	公園整備	南国市 本調査	6~7月	400	
	19	91-6YO	伏原大塚古墳	土佐山田町	病院建設	土佐山田町 本調査	8~9月	700	
	20	91-8TK	土佐国府跡	南国市	運動公園整備	南国市 本調査	8~10月	200	
	21	91-9NH	本村遺跡	野市町	ほ場整備	野市町 本調査	9~2月	1,000	
	22	91-12KB	拝原遺跡	香我美町	ほ場整備	高知県 本調査	7~10月	3,000	
	23	91-28TN	奈路遺跡	十和村	住宅建設	十和村 本調査	11~12月	400	
	24	91-34MH	堀ノ尻遺跡	本山町	町道改良	本山町 本調査	3~4月	250	
	25	91-35KB	美良布遺跡	香北町	施設建設	香北町 本調査	4月	50	
	26	91-2YS	芳原城跡	春野町	農地造成	個人 試掘確認調査	4~6月	800	
	27	91-19KC	高知城跡	高知県	施設整備	高知県 試掘確認調査	7~8月	500	
	28	91-26MM	松ノ木遺跡	本山町	遺跡内容確認	本山町 試掘確認調査	6~7月	500	
	29	91-7KK	窪川北部遺跡群	窪川町	ほ場整備	窪川町 試掘確認調査	7~8月	100	
	30	91-24KN	窪川南部遺跡群	窪川町	ほ場整備	窪川町 試掘確認調査	11~12月	150	
	31	91-25ST	斗賀野遺跡群	佐川町	ほ場整備	佐川町 試掘確認調査	12月	400	
	32	91-29YG	シタノチ遺跡	土佐山田町	ほ場整備	土佐山田町 試掘確認調査	12~1月	120	
	33	91-30YH	山田北部遺跡群	土佐山田町	ほ場整備	土佐山田町 試掘確認調査	12~2月	100	
平成4年度	1992	1	92-1KY	柳田遺跡	高知県	店舗建設	民間 本調査	8~12月	4,540
	2	92-5HM	南浦遺跡	春野町	老人ホーム建設	春野町 本調査	4~6月	690	
	3	92-10NSM	ハナノシロ城跡	中村市	中村宿毛道路	国交省 本調査	5~10月	3,500	
	4	92-11NSEK	江ノ古城跡	中村市	中村宿毛道路	国交省 本調査	5~11月	1,400	
	5	92-12NSN	西ノ谷遺跡	中村市	中村宿毛道路	国交省 本調査	9~12月	1,350	
	6	92-14NK	金地遺跡	南国市	工場建設	民間 本調査	6~8月	800	
	7	92-16KJ	秦泉寺庵寺跡	高知県	県道改良	高知県 本調査	6~7月	160	
	8	92-21KM	峯の上遺跡	窪川町	ほ場整備	高知県 本調査	6~8月	1,500	
	9	92-19IS	坂本岩陰遺跡	池川町	遺跡内容確認	池川町 試掘確認調査	9月	8	
	10	92-32IB	バワガ森北斜面遺跡	伊野町	広域農道	高知県 試掘確認調査	1~2月	60	
	11	92-1KY	柳田遺跡	高知県	店舗建設確認	高知県 試掘確認調査	4~5月	255	
	12	92-33KN	国見遺跡	中村市	中学校建設	中村市 試掘確認調査	1月	200	
	13	92-34SE	栄工田遺跡	南国市	道路公団	道路公団 試掘確認調査	1~2月	200	
	14	92-9NH	本村遺跡	野市町	ほ場整備	野市町 本調査	5~7月	1,300	
	15	92-20YG	林田シタノチ遺跡	土佐山田町	ほ場整備	高知県 本調査	10~11月	2,700	
	16	92-24SI	岩井ノ遺跡	佐川町	ほ場整備	高知県 本調査	10~12月	3,600	
	17	92-7HN	仁ノ遺跡	春野町	砂利採集	個人 本調査	5~8月	400	
	18	92-22TK	木屋ノ内遺跡	大正町	ほ場整備	大正町 本調査	9月	125	
	19	92-30YHK	久次遺跡カリヤガノ地区	土佐山田町	ほ場整備	高知県 本調査	11~12月	2,000	
	20	92-2YC	芳原城跡	春野町	農地造成	個人 試掘確認調査	9~1月	1,500	
	21	92-4KB	土佐国分寺跡	南国市	庫裡建設	南国市 試掘確認調査	4~5月	220	
	22	92-6YO	伏原大塚古墳	土佐山田町	遺跡内容確認	土佐山田町 試掘確認調査	7~1月	300	
	23	92-18OM	ムクノ山遺跡	大月町	遺跡内容確認	大月町 試掘確認調査	8月	600	
	24	92-25KB	土佐国分寺跡	南国市	参道改修	南国市 試掘確認調査	10~11月	130	
	25	92-27MM	松ノ木遺跡	本山町	遺跡内容確認	本山町 試掘確認調査	10~3月	550	
	26	92-36OT	竜ヶ追遺跡	大月町	遺跡内容確認	大月町 試掘確認調査	8月	8	
	27	92-3TS	川口新階遺跡	十和村	小学校施設整備	十和村 試掘確認調査	4月	104	
	28	92-8KK	籠ノ谷遺跡	高知県	県道改良	高知県 試掘確認調査	5月	100	
	29	92-13HT	高野遺跡	東津野村	農道建設	高知県 試掘確認調査	10月	8	
	30	92-15HS	西畑遺跡	春野町	ほ場整備	春野町 試掘確認調査	5~9~10月	750	
	31	92-17HO	奥谷遺跡	春野町	町道改良	春野町 試掘確認調査	8月	35	
	32	92-23TM	ミズケレ遺跡	土佐清水市	都市計画事業	土佐清水市 試掘確認調査	10月	35	
	33	92-26NH	東崎遺跡	南国市	農業高校整備	高知県 試掘確認調査	10月	10	
	34	92-28HJ	平野遺跡	中村市	県道改良	高知県 試掘確認調査	10月	60	
	35	92-29HZ	ハザマダ遺跡	南国市	ほ場整備	南国市 試掘確認調査	11~12月	113	
	36	92-31MO	岡の前遺跡	三原村	ほ場整備	三原村 試掘確認調査	11月	138	
	37	92-35YSW	新設西部遺跡群	土佐山田町	ほ場整備	高知県 試掘確認調査	11~2月	328	
	38	92-37MH	八反坪遺跡	土佐町	民間病院施設整備	土佐町 試掘確認調査	3月	68	
平成5年度	1993	1	93-1NF	船戸遺跡	中村市	中村宿毛道路	国交省 本調査	4~2月	6,000
	2	93-3SE	栄工田遺跡	南国市	四国横断自動車道	道路公団 本調査	5~12月	3,000	
	3	93-5NK	金地遺跡	南国市	工場建設	民間 本調査	5月	500	
	4	93-13JK	秦泉寺庵寺跡	高知県	県道改良	高知県 本調査	4~5月	80	
	5	93-17UC	浦戸城跡	高知県	国民舎建設	高知県 本調査	8~11月	610	

	年度別 No.	調査略号	遺跡/調査名	調査地/市町村	事業名等	事業者/地点等	本調査/試掘確認	調査期間	調査面積(約㎡)		
平成5年度	1993	6	93-18NN	長畝遺跡	南 国 市	四国横断自動車道	道 路 公 団	本 調 査	5・1～3月	1,500	
	7	93-19KH	尾立遺跡	高 知 市	四国横断自動車道	道 路 公 団	本 調 査	10～12月	900		
	8	93-20TZ	下分遠崎遺跡	香 我 美 町	県道改良	高 知 県	本 調 査	9～10月	400		
	9	93-6KI	蚊居田城跡	南 国 市	倉庫建設	民 間	試 掘 確 認 調 査	6月	600		
	10	93-8NG	池長崎遺跡	高 知 市	県道改良	高 知 県	試 掘 確 認 調 査	7～8月	1,500		
	11	93-16KY	柳田遺跡	高 知 市	店舗建設	高 知 市	試 掘 確 認 調 査	8月	140		
	12	93-21SK	池ノ上・楠山遺跡	宿 毛 市	坂本ダム建設	高 知 県	試 掘 確 認 調 査	11月	800		
	13	93-24KY	柳田遺跡	高 知 市	福祉プラザ建設	高 知 県	試 掘 確 認 調 査	12月	180		
	14	93-25SB	須崎バイパス池ノ内地区	須 崎 市	須崎バイパス	国 交 省	試 掘 確 認 調 査	12月	250		
	15	93-32FK	福井遺跡	高 知 市	四国横断自動車道	道 路 公 団	試 掘 確 認 調 査	1～3月	250		
	16	93-33NOM	奥谷南遺跡	南 国 市	四国横断自動車道	道 路 公 団	試 掘 確 認 調 査	2～3月	300		
	17	93-4KN	国見遺跡	中 村 市	中学校建設	中 村 市	本 調 査	5～8月	1,600		
	18	93-10SI	岩井工遺跡	佐 川 町	ほ場整備	高 知 県	本 調 査	6～9月	1,270		
	19	93-11NC	二ノ部城跡	佐 川 町	ほ場整備	高 知 県	本 調 査	10月	150		
	20	93-12SN	二ノ部遺跡	佐 川 町	ほ場整備	高 知 県	本 調 査	10～2月	4,860		
	21	93-29YHH	久次遺跡林田地区	土 佐 山 田 町	ほ場整備	高 知 県	本 調 査	9～12月	3,000		
	22	93-36MDC	本山上居城跡	本 山 町	石垣改修	本 山 町	本 調 査	2～3月	80		
	23	93-37HK	北川遺跡	東 津 野 村	ほ場整備	東 津 野 村	本 調 査	2月	50		
	24	93-2YC	芳原城跡	春 野 町	農地造成	個 人	試 掘 確 認 調 査	4月	250		
	25	93-7KC	高知城跡伝御台所	高 知 市	史跡整備	高 知 県	試 掘 確 認 調 査	7～10月	1,500		
	26	93-14KB	土佐国分寺跡	南 国 市	史跡確認	南 国 市	試 掘 確 認 調 査	6～12月	300		
	27	93-15TD	十川駄馬崎遺跡	十 和 村	遺跡内容確認	十 和 村	試 掘 確 認 調 査	6～10月	100		
	28	93-26KC	高知城跡三ノ丸	高 知 市	史跡確認	高 知 県	試 掘 確 認 調 査	11月	100		
	29	93-28MM IV	松ノ木遺跡	本 山 町	遺跡内容確認	本 山 町	試 掘 確 認 調 査	11～1月	1,000		
	30	93-34KB	土佐国分寺跡	南 国 市	光明殿建設	南 国 市	試 掘 確 認 調 査	5～8月	100		
	31	93-35NOK	大崎山古墳	野 市 町	遺跡内容確認	野 市 町	試 掘 確 認 調 査	2～3月	10		
	32	93-30HS	西畑・大上遺跡	春 野 町	ほ場整備	春 野 町	試 掘 確 認 調 査	12・2月	200		
	平成6年度	1994	1	94-1GN	具同中山遺跡群	中 村 市	中村宿毛道路	国 交 省	本 調 査	5～2月	5,527
		2	94-2KF	福井遺跡	高 知 市	四国横断自動車道	道 路 公 団	本 調 査	4～2月	5,000	
		3	94-3NN	長畝3号墳	南 国 市	四国横断自動車道	道 路 公 団	本 調 査	6～12月	1,600	
		4	94-4NOM	奥谷南遺跡	南 国 市	四国横断自動車道	道 路 公 団	本 調 査	4～1月	5,400	
		5	94-12SI	池ノ上遺跡	宿 毛 市	坂本ダム建設	高 知 県	本 調 査	7～8月	630	
6		94-13SK	楠山遺跡	宿 毛 市	坂本ダム建設	高 知 県	本 調 査	9～10月	640		
7		94-14RNK	小龍遺跡	南 国 市	国道195号改良	高 知 県	本 調 査	7～12月	8,506		
8		94-13KC	高知城跡伝御台所	高 知 市	史跡整備	高 知 県	試 掘 確 認 調 査	7～9月	930		
9		94-5FK	深淵北遺跡	野 市 町	ほ場整備	野 市 町	本 調 査	9～12月	1,800		
10		94-11MN	永田遺跡	本 山 町	店舗建設	本 山 町	本 調 査	6月	400		
11		94-29NS	下ノ坪遺跡	野 市 町	ほ場整備	野 市 町	本 調 査	1～3月	1,218		
12		94-9HH	姫野々城跡	葉 山 村	遺跡内容確認	葉 山 村	試 掘 確 認 調 査	5～8月	200		
13		94-10TD	十川駄馬崎遺跡	十 和 村	遺跡内容確認	十 和 村	試 掘 確 認 調 査	6～8月	30		
14		94-15ON	ナシヶ森遺跡	大 月 町	遺跡内容確認	大 月 町	試 掘 確 認 調 査	8～10月	80		
15		94-20NH	比江庵寺跡	南 国 市	遺跡内容確認	南 国 市	試 掘 確 認 調 査	1～2月	340		
16		94-25MM	松ノ木遺跡	本 山 町	遺跡内容確認	本 山 町	試 掘 確 認 調 査	11～3月	550		
17		94-5FK	深淵北遺跡	野 市 町	ほ場整備	野 市 町	試 掘 確 認 調 査	5・9～12月	1,410		
18		94-6KY	柳田遺跡(龍原地区)	高 知 市	宅地開発	民 間	試 掘 確 認 調 査	6月	24		
19		94-7KY	柳田遺跡(中ノ坪地区1)	高 知 市	宅地開発	民 間	試 掘 確 認 調 査	8月	24		
20		94-8KY	柳田遺跡(沖田地区)	高 知 市	公園整備	高 知 市	試 掘 確 認 調 査	10～12月	1,088		
21		94-27KY	柳田遺跡(中ノ坪地区2)	高 知 市	宅地開発	民 間	試 掘 確 認 調 査	12月	140		
22		94-16KN	介良中野遺跡	高 知 市	個人住宅	民 間	試 掘 確 認 調 査	9月	50		
23		94-18TK	土佐国府跡	南 国 市	個人住宅	民 間	試 掘 確 認 調 査	10月	110		
24		94-19NI	岩村遺跡群	南 国 市	ほ場整備	高 知 県	試 掘 確 認 調 査	10～1月	256		
25		94-22SC	曾我城跡	大 方 町	国営農地	農 林 水 産 省	試 掘 確 認 調 査	10～12月	384		
平成7年度	1995	1	95-1GN	具同中山遺跡群	中 村 市	中村宿毛道路	国 交 省	本 調 査	5～11月	1,700	
	2	95-2RNK	小龍遺跡群	南 国 市	国道195号改良	高 知 県	本 調 査	4～10月	8,322		
	3	95-6NOM	奥谷南遺跡	南 国 市	四国横断自動車道	道 路 公 団	本 調 査	12～3月	1,250		
	4	95-7RNS	下末松遺跡	南 国 市	国道195号改良	高 知 県	本 調 査	5～6月	1,200		
	5	95-11SK	楠山遺跡	宿 毛 市	坂本ダム建設	高 知 県	本 調 査	7～11月	1,870		
	6	95-15RY	三ツ又遺跡	土 佐 山 田 町	国道195号改良	高 知 県	本 調 査	8～12月	4,300		
	7	95-17RNJ	陣山遺跡	南 国 市	国道195号改良	高 知 県	本 調 査	9～12月	3,692		
	8	95-34IIB	八田神母谷遺跡	伊 野 町	四国横断自動車道	道 路 公 団	本 調 査	12～3月	3,300		
	9	95-4SD	吾井郷・神田地区	須 崎 市	須崎道路	国 交 省	試 掘 確 認 調 査	5～6・11月	822		
	10	95-10TB	高岡地区	土 佐 市	土佐市バイパス	国 交 省	試 掘 確 認 調 査	6～7月	550		
	11	95-20IH	八田地区	伊 野 町	四国横断自動車道	道 路 公 団	試 掘 確 認 調 査	9～3月	700		
	12	95-28SBK	神田地区	須 崎 市	四国横断自動車道	道 路 公 団	試 掘 確 認 調 査	12～1月	300		
	13	95-31HS	飛田坂本遺跡	須 崎 市	四国横断自動車道	道 路 公 団	試 掘 確 認 調 査	1～3月	850		
	14	95-8NS	下ノ坪遺跡	野 市 町	ほ場整備	野 市 町	本 調 査	6～3月	1,630		
	15	95-16KM	神田ムク入道遺跡	高 知 市	店舗建設	民 間	本 調 査	9～10月	300		
	16	95-18SC	曾我城跡	大 方 町	国営農地	農 林 水 産 省	本 調 査	9～12月	1,081		
	17	95-22KM	上美都岐遺跡	佐 川 町	ほ場整備	高 知 県	本 調 査	10～1月	2,818		
	18	95-37OG	女川遺跡	越 知 町	町道建設	越 知 町	本 調 査	3月	207		
	19	95-5HH	姫野々城跡	葉 山 村	遺跡内容確認	葉 山 村	試 掘 確 認 調 査	5～8月	320		
	20	95-9MM	松ノ木遺跡	本 山 町	遺跡内容確認	本 山 町	試 掘 確 認 調 査	4～5月	100		
	21	95-13ON	ナシヶ森遺跡	大 月 町	遺跡内容確認	大 月 町	試 掘 確 認 調 査	8～9月	120		
	22	95-14NH	比江庵寺跡	南 国 市	遺跡内容確認	高 知 県	試 掘 確 認 調 査	7・11～2月	1,132		
	23	95-24KC	高知城跡伝御台所石垣	高 知 市	史跡整備	高 知 県	試 掘 確 認 調 査	11～1月	120		
	24	95-26OG	女川遺跡	越 知 町	遺跡内容確認	越 知 町	試 掘 確 認 調 査	12月	46		
	25	95-36OG	女川遺跡	越 知 町	個人住宅	越 知 町	試 掘 確 認 調 査	2月	175		
	26	95-3KBS	鷺泊橋遺跡	高 知 市	宅地開発	民 間	試 掘 確 認 調 査	4月	100		
	27	95-12KY	柳田遺跡(船戸地区)	高 知 市	宅地開発	民 間	試 掘 確 認 調 査	7月	75		
	28	95-21KK	介良遺跡	高 知 市	河川改修	高 知 市	試 掘 確 認 調 査	10～11月	800		

	年度別 No.	調査略号	道路/調査名	調査地/市町村	事業名等	事業者/地点等	本調査/試験確認	調査期間	調査面積(約㎡)	
平成7年度	1995	29	95-25KM	神田ムク入道遺跡	高知市	宅地開発	民間	試験確認調査	12月	125
		30	95-30YK	柳田遺跡(勝負ノ川地区)	高知市	店舗建設	民間	試験確認調査	1月	75
		31	95-35KY	柳田遺跡(榊甲地区)	高知市	店舗建設	民間	試験確認調査	2月	125
平成8年度	1996	1	96-1GN	具同中山道跡群	中村市	中村宿毛道路	国交省	本調査	6~11月	2,000
		2	96-1GN	具同中山道跡群	中村市	県道改良	高知県	本調査	10~11月	500
		3	96-2RNJ	陣山道跡	南国市	国道195号改良	高知県	本調査	8~11月	4,145
		4	96-3RNG	五反地遺跡	南国市	国道195号改良	高知県	本調査	4~8月	6,000
		5	96-4TI	光永・岡ノ下遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	7~2月	5,104
		6	96-5TT	天神遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	7~10月	2,439
		7	96-6TH	林口遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	11~2月	2,717
		8	96-7NOM	奥谷南遺跡	南国市	四国横断自動車道	道路公団	本調査	4~10月	3,000
		9	96-9NT	田村遺跡群	南国市	高知空港拡張	運輸省	本調査	11~3月	17,300
		10	96-10KK	介良遺跡	高知市	河川改修	高知市	本調査	5~11月	3,000
		11	96-11HI	八田神母谷遺跡	伊野町	四国横断自動車道	道路公団	本調査	4~1月	4,750
		12	96-12IHN	八田奈路遺跡	伊野町	四国横断自動車道	道路公団	本調査	4~3月	29,000
		13	96-2ISHS	飛田坂本遺跡	須崎市	四国横断自動車道	道路公団	本調査	9~2月	4,000
		14	96-4NA	浅村遺跡	中村市	中村宿毛道路	国交省	本調査	12~2月	800
		15	96-9NT	田村遺跡群	南国市	高知空港拡張	運輸省	試験確認調査	8~9月	2,368
		16	96-14IT	居徳地区1	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	試験確認調査	6~8月	650
		17	96-22TM	御子納地区	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	試験確認調査	10月	425
		18	96-23TK	北原地区	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	試験確認調査	11~1月	875
		19	96-29IT	居徳地区2	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	試験確認調査	11~12月	448
		20	96-43HW	戸波地区	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	試験確認調査	1~2月	650
		21	96-53HM	人麻呂様地区	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	試験確認調査	2~3月	375
		22	96-8NS	下ノ坪遺跡	野市町	ほ場整備	野市町	本調査	4~7月	3,600
		23	96-16SC	曾我城跡	大方町	国営農地	農林水産省	本調査	7~10月	2,336
		24	96-28TS	林口遺跡市道	土佐市	市道改良	土佐市	本調査	11~2月	510
		25	96-39TT	田島遺跡	土佐市	ほ場整備	高知県	本調査	7~8月	370
		26	96-49MI	銀杏ノ木遺跡	本山町	宅地開発	本山町	本調査	2~3月	2,366
		27	96-58NI	岩村遺跡群・岩村城跡	南国市	ほ場整備	高知県	本調査	9~2月	3,910
		28	96-59NS	白猪田遺跡	南国市	ほ場整備	高知県	本調査	12~2月	1,019
		29	96-60KK	窪ノ川遺跡	窪川町	県道改良	高知県	本調査	12月	800
		30	96-15NI	一条氏岡連遺跡	中村市	ホテル建設	民間	試験確認調査	5月	150
		31	96-51HHJ	姫野々城跡	葉山村	遺跡内容確認	葉山村	試験確認調査	12~2月	40
		32	96-54OG	女川遺跡	越知町	遺跡内容確認	越知町	試験確認調査	2~3月	533
		33	96-31IB	バーガ森北斜面遺跡	伊野町	広域農道	高知県	試験確認調査	10~11月	124
		34	96-52HTD	津野氏土居跡	葉山村	福祉センター建設	葉山村	試験確認調査	2~3月	750
平成9年度	1997	1	97-1NT	田村遺跡群	南国市	高知空港拡張	運輸省	本調査	5~3月	46,959
		2	97-2NH	間城跡	中村市	中村宿毛道路	国交省	本調査	5~10月	5,500
		3	97-3GN	具同中山道跡群	中村市	県道改良	高知県	本調査	4~2月	2,189
		4	97-4TI	光永・岡ノ下遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	5~7月	747
		5	97-5TT	天神遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	9~11月	4,303
		6	97-7TA	天崎遺跡	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	本調査	5~3月	8,000
		7	97-8IT	居徳遺跡群	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	本調査	10~3月	13,839
		8	97-12HN	八田奈路遺跡	伊野町	四国横断自動車道	道路公団	本調査	4~5月	4,000
		9	97-21HS	飛田坂本遺跡	須崎市	四国横断自動車道	道路公団	本調査	4~6月	1,950
		10	97-17ON	西本城跡	大方町	県道改良	高知県	本調査	10~3月	4,500
		11	97-18NS	里改田遺跡	南国市	県道改良	高知県	本調査	12月	108
		12	97-14TH	林口地区	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	試験確認調査	7~9月	650
		13	97-15HM	人麻呂様城地区	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	試験確認調査	8月	70
		14	97-20TK	北原地区	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	試験確認調査	11~1月	320
		15	97-16RNK	小籠・上末松地区	南国市	国道195号改良	高知県	試験確認調査	8~9月	540
		16	97-10IB	バーガ森北斜面遺跡	伊野町	広域農道	高知県	本調査	6~10月	800
		17	97-11MI	銀杏ノ木遺跡	本山町	宅地造成	民間	本調査	5~7月	700
		18	97-22HC	人麻呂様城跡	土佐市	墓地造成	土佐市	本調査	1~3月	1,000
		19	97-29HH	姫野々土居跡	葉山村	福祉センター建設	葉山村	本調査	6~10月	4,100
		20	97-19NO	大宮・宮崎遺跡	西土佐町	遺跡内容確認	西土佐町	試験確認調査	10~11月	900
		21	97-28KY	上河内地区	香我美町	農道整備	高知県	試験確認調査	3月	84
平成10年度	1998	1	98-1NT	田村遺跡群	南国市	高知空港拡張	運輸省	本調査	4~3月	51,353
		2	98-2SK	神ヶ谷遺跡	宿毛市	中村宿毛道路	国交省	本調査	4~8月	800
		3	98-15NA	浅村遺跡	中村市	中村宿毛道路	国交省	本調査	7~9月	780
		4	98-3GN	具同中山道跡群	中村市	県道改良	高知県	本調査	10~3月	2,838
		5	98-4TK	北地アキノ木遺跡	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	本調査	5~9月	1,000
		6	98-7TN	西鴨地遺跡	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	本調査	6~9月	2,000
		7	98-8TI	居徳遺跡群	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	本調査	6~3月	31,098
		8	98-13KT	北高田遺跡	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	本調査	9~3月	5,400
		9	-	飛田坂本遺跡	須崎市	四国横断自動車道	道路公団	本調査	5~6月	150
		10	98-5TT	天神遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	5~11月	8,108
		11	98-6TH	林口遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	11~12月	904
		12	98-11RNK	小籠北遺跡	南国市	国道195号改良	高知県	本調査	6~9月	3,981
		13	98-23NS	里改田遺跡	南国市	県道改良	高知県	本調査	2~3月	778
		14	98-2SK	神ヶ谷遺跡	宿毛市	中村宿毛道路	国交省	試験確認調査	4月	300
		15	98-9TWH	戸波西地区	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	試験確認調査	8月	200
		16	98-12KT	北高田遺跡試験	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	試験確認調査	5~9月	750
		17	98-19NK	古津賀遺跡	中村市	古津賀バイパス	国交省	試験確認調査	10月	588
		18	98-22GN	具同中山道跡群	中村市	中村宿毛道路	国交省	試験確認調査	2月	200
		19	98-21KB	窪津遺跡	土佐清水市	県道改良	高知県	試験確認調査	1~2月	524
		20	-	蓮池城跡北斜面遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	試験確認調査	2月	150
		21	98-14KH	幅山遺跡	香我美町	農道整備	香我美町	本調査	7~8月	520
		22	-	江川中畝遺跡	西土佐村	ほ場整備	高知県	本調査	10月	480

	年度別 No.	調査略号	遺跡/調査名	調査地/市町村	事業名等	事業者/地点等	本調査/試掘確認	調査期間	調査面積(約㎡)	
平成10年度	1998	23	-	芝の坊遺跡	佐川町	ほ場整備	高知県	本調査	6月	197
	24	98-10B	バーガ森北斜面遺跡	伊野町	広域農道	高知県	試掘確認調査	6~3月	115	
	25	-	ナシヶ森遺跡	大月町	ほ場整備	高知県	試掘確認調査	4~3月	290	
	26	-	コゴク廃寺跡	奈半利町	ほ場整備	高知県	試掘確認調査	12~3月	625	
	27	-	小浜城跡	鏡村	国体施設整備	鏡村	試掘確認調査	1~2月	470	
28	-	木塚城跡	春野町	国体施設整備	春野町	試掘確認調査	3月	480		
平成11年度	1999	1	99-1NT	田村遺跡群	南国市	高知空港拡張	運輸省	本調査	5~3月	26,025
	2	99-6TH	林口遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	5~12月	5,340	
	3	99-5HK	蓮池城跡北斜面遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	5~6・10月	1,091	
	4	99-11GN	具同中山遺跡群	中村市	中村宿毛道路	国交省	本調査	5~2月	4,470	
	5	99-4GNS	具同中山遺跡群	中村市	県道改良	高知県	本調査	6~8月	345	
	6	99-15YH	林田遺跡	土佐山田町	県道改良	高知県	本調査	9~11月	2,000	
	7	99-23NS	里改田遺跡	南国市	県道改良	高知県	本調査	5~8月	684	
	8	99-12KT	北高田遺跡	土佐市	四国横断自動車道	道路公団	試掘確認調査	11~12月	125	
	9	99-14NST	里改田遺跡(杉本地区)	南国市	県道改良	高知県	試掘確認調査	10月	193	
	10	99-17HN	西分増井遺跡	春野町	農道整備	高知県	試掘確認調査	12月	54	
	11	-	林口遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	試掘確認調査	7・9月	40	
	12	99-5HK	蓮池城跡北斜面遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	試掘確認調査	1月	54	
	13	-	光永・岡ノ下遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	試掘確認調査	1月	70	
	14	-	野田遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	試掘確認調査	10月	189	
	15	-	長谷川丸遺跡	土佐山田町	県道改良	高知県	試掘確認調査	9~10月	140	
	16	-	新川川流域	春野町	河川改良	高知県	試掘確認調査	2~3月	500	
	17	-	下分遠崎遺跡	香我美町	体育館建設	香我美町	本調査	4~6月	1,000	
	18	99-7NK	コゴク廃寺跡	奈半利町	ほ場整備	高知県	本調査	11~2月	1,638	
	19	-	土佐国衙跡	南国市	公園整備	南国市	本調査	5~7月	1,466	
	20	-	泉ヶ内遺跡	南国市	農道整備	南国市	本調査	10月	458	
	21	-	上岡遺跡	野市町	集落整備	野市町	本調査	1~3月	1,200	
	22	99-8KH	小浜城跡	鏡村	国体施設整備	鏡村	本調査	9~3月	8,000	
	23	99-9KC	木塚城跡	春野町	施設建設	春野町	本調査	10~3月	11,000	
	24	99-10B	バーガ森北斜面遺跡	伊野町	広域農道	高知県	本調査	10~1月	800	
	25	-	ナシヶ森遺跡	大月町	ほ場整備	高知県	試掘確認調査	7~11月	200	
平成12年度	2000	1	00-1NT	田村遺跡	南国市	高知空港拡張	国交省	本調査	6~11月	9,772
	2	00-3GN	具同中山遺跡群	中村市	中村宿毛道路	国交省	本調査	6~11月	1,625	
	3	00-4NH	久木ノ城跡	中村市	中村宿毛道路	国交省	本調査	10~1月	2,368	
	4	00-5TN	野田遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	5~11月	3,686	
	5	00-10TK	京間遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	1~3月	1,261	
	6	00-8TH	林田遺跡	土佐山田町	県道改良	高知県	本調査	7~9月	1,000	
	7	00-2KC	高知城本丸・三ノ丸	高知市	史跡整備	高知県	試掘確認調査	8~11月	320	
	8	00-4NH	久木ノ城跡	中村市	中村宿毛道路	国交省	試掘確認調査	8~9月	104	
	9	00-9NOC	岡豊城跡	南国市	河川改修	高知県	試掘確認調査	1~2月	90	
	10	00-12KOC	柏尾山城跡	高知市	採石事業	民間	試掘確認調査	10~12月	140	
	11	00-8TH	林田遺跡	土佐山田町	県道改良	高知県	試掘確認調査	6月	64	
	12	-	京間他地区	土佐市	土佐市バイパス	国交省	試掘確認調査	9~12月	509	
	13	-	新川川流域(秋山地区他)	春野町	河川改修	高知県	試掘確認調査	10~1月	2,625	
	14	-	新川川流域(弘岡下地区)	春野町	河川改修	高知県	試掘確認調査	10~1月	2,675	
	15	-	芳原川・枝川流域	春野町	河川改修	高知県	試掘確認調査	12~1月	1,075	
	16	-	コゴク廃寺跡	奈半利町	ほ場整備	高知県	本調査	4~3月	2,500	
	17	-	上岡遺跡	野市町	集落整備	野市町	本調査	4~3月	1,100	
	18	00-11NBD	母代寺土屋敷遺跡	野市町	ほ場整備	野市町	本調査	1~3月	3,000	
	19	-	木塚城跡	春野町	施設建設	春野町	本調査	4~3月	11,000	
	20	00-2KC	高知城本丸・三ノ丸	高知市	史跡整備	高知県	試掘確認調査	5~6月	45	
	21	-	池城跡	高知市	土砂採集	民間	試掘確認調査	3月	90	
平成13年度	2001	1	01-1NT	田村遺跡	南国市	高知空港拡張	国交省	本調査	5~12月	2,535
	2	01-2TK	京間遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	5~11月	3,616	
	3	01-3TN	野田遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	11~2月	2,118	
	4	01-4NK	古津賀遺跡群	中村市	国道56号改良	国交省	本調査	5~6月	56	
	5	01-5GN	具同中山遺跡群	中村市	中村宿毛道路	国交省	本調査	8~11月	1,926	
	6	01-15SK	神ヶ谷2号窯跡	中村市	中村宿毛道路	国交省	本調査	7月	181	
	7	01-10KS	高知城伝下屋敷遺跡	高知市	裁判所建設	最高裁判所	本調査	4~7月	1,007	
	8	01-8NT	田村遺跡群	南国市	公園整備	高知県	本調査	8~10月	640	
	9	01-9NOC	岡豊城跡	南国市	河川改修	高知県	本調査	7~11月	1,300	
	10	01-11HK	北川内遺跡	春野町	河川改修	高知県	本調査	4~6月	410	
	11	01-12HH	東江曲遺跡	春野町	河川改修	高知県	本調査	7~10月	790	
	12	01-18HN	西分増井・馬場末遺跡	春野町	河川改修	高知県	本調査	10~3月	4,060	
	13	01-13KN	中屋敷遺跡	香北町	県道改良	高知県	本調査	5月	200	
	14	01-23AY	勇前遺跡	安芸市	県道改良	高知県	本調査	2月	598	
	15	01-7KK	高知城跡本丸	高知市	石垣改修	高知県	本調査	11~3月	300	
	16	01-6NF	不破遺跡	中村市	中村宿毛道路	国交省	試掘確認調査	12月	150	
	17	01-13KN	中屋敷遺跡	香北町	県道改良	高知県	試掘確認調査	4月	275	
	18	01-16YH	林田遺跡	土佐山田町	県道改良	高知県	試掘確認調査	7月	112	
	19	01-17KH	杵ノ木遺跡	香北町	県道改良	高知県	試掘確認調査	6~10月	160	
	20	01-19HO	奥谷地区	春野町	県道改良	高知県	試掘確認調査	9月	148	
	21	01-22HS	千本杉遺跡	日高村	県道改良	高知県	試掘確認調査	12月	99	
	22	01-18HN	西分増井・馬場末遺跡	春野町	河川改修	高知県	試掘確認調査	8~9月	1,100	
	23	01-14TS	爪白遺跡試掘	土佐清水市	公園整備	高知県	試掘確認調査	6月	72	
平成14年度	2002	1	02-3TN	野田遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	5~2月	2,169
	2	02-4TK	京間遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	6~10月	2,237	
	3	02-5NF	不破遺跡	中村市	中村宿毛道路	国交省	本調査	10~1月	1,459	
	4	02-2HN	西分増井遺跡	春野町	河川改修	高知県	本調査	4~10月	3,510	
	5	02-7HS	千本杉遺跡	日高村	県道改良	高知県	本調査	9~11月	375	

	年度別 No.	調査略号	道路/調査名	調査地/市町村	事業名等	事業者/地点等	本調査/試掘確認	調査期間	調査面積(約㎡)	
平成14年度	2002	6	02-9KK	高知城跡本丸	高知市	石垣整備	高知県	本調査	8~2月	200
	7	02-5NF	不破遺跡	中村市	中村宿毛道路	国交省	試掘確認調査	1~2月	52	
	8	02-7HS	千本杉遺跡	日高村	県道改良	高知県	試掘確認調査	6月	6	
	9	02-10KS	介良白水遺跡	高知市	県道改良	高知県	試掘確認調査	9月	128	
	10	-	ジョウマン遺跡	安芸市	県道改良	高知県	試掘確認調査	1月	128	
	11	-	楠目地区	土佐山田町	都市計画道路	高知県	試掘確認調査	12月	64	
	12	-	土島田遺跡	南国市	国道195号改良	高知県	試掘確認調査	1月	48	
平成15年度	2003	13	02-2HN	西分堀井遺跡	春野町	河川改修	高知県	試掘確認調査	7月	112
	1	03-2TK	京間遺跡	土佐市	土佐市バイパス	国交省	本調査	5~6月	1,236	
	2	03-11SJ	城ノ台城跡	佐川町	国道494号改良	高知県	本調査	9~10号改良	498	
	3	03-1AJ	ジョウマン遺跡	安芸市	県道改良	高知県	本調査	5~6月	600	
	4	03-9HS	千本杉遺跡	日高村	県道改良	高知県	本調査	8月	68	
	5	03-16YH	林田遺跡	土佐山田町	県道改良	高知県	本調査	1~3月	730	
	6	03-6NK	衣笠地区	高知市	高知南国道路	国交省	試掘確認調査	7~8月	76	
	7	03-7NN	西野々地区	南国市	高知南国道路	国交省	試掘確認調査	8~9月	1,250	
	8	03-8YI	出口・千切地区	夜須町	南国安芸道路	国交省	試掘確認調査	10月	750	
	9	03-14NF	不破遺跡	中村市	中村宿毛道路	国交省	試掘確認調査	1~2月	261	
	10	03-11SJ	城ノ台城跡	佐川町	国道494号改良	高知県	試掘確認調査	9月	24	
	11	03-3HS	千本杉遺跡	日高村	県道改良	高知県	試掘確認調査	6~7月	30	
	12	03-4AK	高台寺遺跡	安芸市	県道改良	高知県	試掘確認調査	6~7月	97	
	13	03-10TH	ひびのき園の神母遺跡	土佐山田町	県道改良	高知県	試掘確認調査	8月	42	
	14	03-13YH	林田遺跡	土佐山田町	県道改良	高知県	試掘確認調査	11月	100	
	15	03-13YH	日吉神社遺跡	土佐山田町	県道改良	高知県	試掘確認調査	3月	40	
	16	03-15NS	里改田地区	南国市	県道改良	高知県	試掘確認調査	12月	150	
17	03-5AY	山田山遺跡	安芸市	河川改修	高知県	試掘確認調査	12月	100		
平成16年度	2004	1	04-1YK	口横ヶ谷遺跡	夜須町	南国安芸道路	国交省	本調査	5~1月	7,215
	2	04-2NN	西野々遺跡	南国市	高知南国道路	国交省	本調査	5~2月	17,365	
	3	04-4NT	坪ノ内遺跡	中土佐町	四国横断自動車道	道路公団	本調査	6~7月	800	
	4	04-7NN	西山城跡	中土佐町	四国横断自動車道	道路公団	本調査	11~3月	4,000	
	5	04-9TK	北ノ丸遺跡	土佐市	波介川河口導流	国交省	本調査	10~12月	1,500	
	6	04-6KK	高知城跡三ノ丸	高知市	石垣改修	高知県	本調査	8~3月	730	
	7	04-14KT	徳王子地区	香我美町	南国安芸道路	国交省	試掘確認調査	2~3月	424	
	8	04-8NKO	古津賀遺跡群	中村市	国道56号改良	国交省	試掘確認調査	10月	288	
	9	04-11NSA	坂本遺跡	中村市	中村宿毛道路	国交省	試掘確認調査	11月	65	
	10	04-12OST	田ノ口地区	大方町	大方バイパス	国交省	試掘確認調査	11~12月	15	
	11	-	芝・中島地区	土佐市	土佐市バイパス	国交省	試掘確認調査	2~3月	520	
	12	04-5TN	新居地区	土佐市	波介川河口導流	国交省	試掘確認調査	7~8月	635	
	13	04-3OHF	吹上城跡	大方町	西南大規模公園	高知県	試掘確認調査	5~6月	176	
	14	04-3OHF	弘野遺跡	大方町	西南大規模公園	高知県	試掘確認調査	9月	424	
	15	04-10YH	加茂ハイタノクボ遺跡	土佐山田町	県道改良	高知県	試掘確認調査	10月	20	
	16	04-13KNM	ミトロ遺跡	高知市	国道195号改良	高知県	試掘確認調査	1月	108	
平成17年度	2005	1	05-1YK	口横ヶ谷遺跡	夜須町	南国安芸道路	国交省	本調査	5~7月	1,740
	2	05-2NN	西野々遺跡	南国市	高知南国道路	国交省	本調査	5~1月	17,981	
	3	05-16KH	花宴遺跡	香南市	南国安芸道路	国交省	本調査	11~3月	5,105	
	4	05-3NSA	坂本遺跡	四万十市	中村宿毛道路	国交省	本調査	5~3月	5,323	
	5	05-6NTU	坪ノ内遺跡	中土佐町	四国横断自動車道	道路公団	本調査	6~3月	5,320	
	6	05-7NN	西山城跡	中土佐町	四国横断自動車道	道路公団	本調査	4~2月	8,200	
	7	05-8TK	上ノ村遺跡	土佐市	波介川河口導流	国交省	本調査	8~12月	4,980	
	8	05-9KNM	ミトロ遺跡	高知市	国道195号改良	高知県	本調査	8~12月	2,414	
	9	05-15YK	加茂ハイタノクボ遺跡	香美市	県道改良	高知県	本調査	10月	12	
	10	05-12KK	高知城跡三ノ丸	高知市	石垣改修	高知県	本調査	9~3月	490	
	11	05-4KM	高知城跡丸ノ内緑地	高知市	イベント設備	高知県	試掘確認調査	5~8月	300	
	12	05-10YH	夜須西地区	香南市	南国安芸道路	国交省	試掘確認調査	8~10月	405	
	13	05-11KT	徳王子地区	香南市	南国安芸道路	国交省	試掘確認調査	9~2月	1,680	
	14	05-19NT	竹中地区	南国市	高知南国道路	国交省	試掘確認調査	9月	260	
	15	05-18TN	中島地区	土佐市	土佐市バイパス	国交省	試掘確認調査	11~12月	422	
	16	05-5TN	新居地区	土佐市	波介川河口導流	国交省	試掘確認調査	5~6月	1,632	
	17	05-17SK	角谷地区	須崎市	四国横断自動車道	道路公団	試掘確認調査	11~12月	576	
	18	05-20KKN	小向西地区	四万十町	四国横断自動車道	道路公団	試掘確認調査	11~12月	144	
	19	05-21KKH	小向東地区	四万十町	四国横断自動車道	道路公団	試掘確認調査	12月	208	
	20	05-22KK	川崎地区	中土佐町	四国横断自動車道	道路公団	試掘確認調査	7月	165	
	21	05-13KIK	介良地区	高知市	県道改良	高知県	試掘確認調査	9~10月	450	
	22	05-14KIN	伊達野地区	南国市	県道改良	高知県	試掘確認調査	10月	277	
平成18年度	2006	1	06-1KH	花宴遺跡	香南市	南国安芸道路	国交省	本調査	4~8月	2,950
	2	06-12YT	坪井遺跡	香南市	南国安芸道路	国交省	本調査	10~1月	2,170	
	3	06-2NN	西野々遺跡	南国市	高知南国道路	国交省	本調査	5~3月	12,218	
	4	06-6NTU	坪ノ内遺跡	中土佐町	四国横断自動車道	国交省	本調査	4月	250	
	5	06-8TK	上ノ村遺跡	土佐市	波介川河口導流	国交省	本調査	8~12月	11,280	
	6	06-3KIK	介良野遺跡	高知市	県道改良	高知県	本調査	4~10月	3,657	
	7	06-10KF	伏原遺跡	香美市	都市計画道路	高知県	本調査	10~2月	1,593	
	8	06-4KK	高知城跡三ノ丸	高知市	石垣改修	高知県	本調査	8~3月	358	
	9	06-5KK	香我美地区	香南市	南国安芸道路	国交省	試掘確認調査	9月	333	
	10	06-7KTH	徳王子広本遺跡	香南市	南国安芸道路	国交省	試掘確認調査	9月	131	
	11	06-13KTO	徳王子大崎遺跡	香南市	南国安芸道路	国交省	試掘確認調査	10月	32	
	12	06-14NIT	伊達野地区	南国市	高知南国道路	国交省	試掘確認調査	11月	130	
	13	06-15INK	天神・鎌田地区	いの町	高知バイパス	国交省	試掘確認調査	12月	358	
	14	06-16SN	中島地区	土佐市	土佐市バイパス	国交省	試掘確認調査	9~10月	544	
	15	06-17SN	注ノ川遺跡	四万十町	四国横断自動車道	国交省	試掘確認調査	9~10月	883	
	16	06-9NM	ミトロ遺跡	南国市	国道195号改良	高知県	試掘確認調査	9月	316	
	17	06-11NS	土島田遺跡(折年遺跡)	南国市	国道195号改良	高知県	試掘確認調査	9~11月	916	

	年度別 No.	調査略号	遺跡/調査名	調査地/市町村	事業名等	事業者/地点等	本調査/試掘確認	調査期間	調査面積(約㎡)	
平成19年度	2007	1	07-1KH	徳王子広本遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	4～3月	9,740
	2	07-16KTM	徳王子前島遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	1～3月	1,549	
	3	07-2NN	西野々遺跡	香 南 市	高知南国道路	国 交 省	本 調 査	4～6月	717	
	4	07-3IS	城ヶ谷山遺跡	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	本 調 査	4～8月	1,207	
	5	07-8TK	上ノ村遺跡	土 佐 市	波介川河口導流	国 交 省	本 調 査	4～3月	16,730	
	6	07-5NS	土島田遺跡(祈年遺跡)	南 国 市	国道195号改良	高 知 県	本 調 査	6～12月	7,053	
	7	07-4・7YH	ひびのきサウジ遺跡	香 美 市	都市計画道路	高 知 県	本 調 査	5～11月	1,132	
	8	07-15KF	伏原遺跡	香 美 市	都市計画道路	高 知 県	本 調 査	11～3月	1,476	
	9	07-14KYH	原遺跡	香 美 市	学校施設整備	高 知 県	本 調 査	12～2月	435	
	10	07-9KK	高知城跡三ノ丸	高 知 市	石垣改修	高 知 県	本 調 査	10～2月	440	
	11	07-10NIT	伊達野地区	南 国 市	高知南国道路	国 交 省	試掘確認調査	10月	118	
	12	07-11NS	関遺跡	南 国 市	高知南国道路	国 交 省	試掘確認調査	10月	27	
	13	07-12GN	長谷(芸西)地区	芸 西 村	南国安芸道路	国 交 省	試掘確認調査	11月	300	
	14	07-13KTM	徳王子前島地区	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	試掘確認調査	11月	161	
	15	-	鎌田地区	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	試掘確認調査	8～9月	252	
	16	-	是友地区	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	試掘確認調査	10月	225	
	17	07-6YH	ひびのきサウジ遺跡	香 美 市	都市計画道路	高 知 県	試掘確認調査	7～8月	80	
	18	07-14KYH	原遺跡	香 美 市	学校施設整備	高 知 県	試掘確認調査	12～2月	20	
平成20年度	2008	1	08-1NS	関遺跡	南 国 市	高知南国道路	国 交 省	本 調 査	7～9月	700
	2	08-2NM	向山戦争遺跡	南 国 市	高知南国道路	国 交 省	本 調 査	9～1月	4,000	
	3	08-9KO	徳王子大崎遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	7～11月	1,650	
	4	08-10KM	徳王子前島遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	11～3月	2,300	
	5	08-7IM	真山城跡	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	本 調 査	11～1月	1,079	
	6	08-11IK	鎌田遺跡	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	本 調 査	11～12月	163	
	7	08-3ITM	天神溝田遺跡	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	本 調 査	1～3月	1,131	
	8	08-8TK	上ノ村遺跡	土 佐 市	波介川河口導流	国 交 省	本 調 査	4～3月	21,140	
	9	08-5NS	土島田遺跡(祈年遺跡)	南 国 市	国道195号改良	高 知 県	本 調 査	4～3月	14,654	
	10	08-15KF	伏原遺跡	香 美 市	都市計画道路	高 知 県	本 調 査	4～9月	3,253	
	11	08-6KKK	クノ丸遺跡	香 南 市	県道改良	高 知 県	本 調 査	7～10月	2,322	
	12	08-3ITM	天神溝田遺跡	い の 町	町道改良	い の 町	本 調 査	7～10月	1,400	
平成21年度	2009	1	09-1KH	東野土居遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	5～8月	3,510
	2	09-10KM	徳王子前島遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	4～7月	1,700	
	3	09-2NS	関遺跡	南 国 市	高知南国道路	国 交 省	本 調 査	8～2月	8,550	
	4	09-4ITM	天神溝田遺跡	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	本 調 査	4～9月	4,400	
	5	09-8TK	上ノ村遺跡	土 佐 市	波介川河口導流	国 交 省	本 調 査	4～9月	9,850	
	6	09-7NK	西弘小路遺跡	高 知 市	法務総合庁舎	法 務 省	本 調 査	10～1月	1,480	
	7	09-5NS	土島田遺跡(祈年遺跡)	南 国 市	国道195号改良	高 知 県	本 調 査	4～3月	4,300	
	8	09-9KH	原遺跡	香 美 市	学校施設整備	高 知 県	本 調 査	5～7月	710	
平成22年度	2010	1	10-1KH	東野土居遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	4～3月	13,960
	2	10-2NS	関遺跡	南 国 市	高知南国道路	国 交 省	本 調 査	9～10月	707	
	3	10-3NT	田村北遺跡	南 国 市	高知南国道路	国 交 省	本 調 査	4～5月	327	
	4	10-4NTN	田村西遺跡	南 国 市	高知南国道路	国 交 省	本 調 査	5～2月	8,700	
	5	10-5IB	バーガ森北斜面遺跡	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	本 調 査	5～2月	4,017	
	6	10-6KO	徳王子大崎遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	10～1月	2,100	
平成23年度	2011	1	11-1KH	東野土居遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	4～2月	32,140
	2	11-2KH	徳王子広本遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	6～8月	2,250	
	3	11-3NTK	田村北遺跡	南 国 市	高知南国道路	国 交 省	本 調 査	9～1月	2,800	
	4	11-4IN	西浦遺跡	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	本 調 査	4～8月	1,500	
	5	11-5IB	バーガ森北斜面遺跡	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	本 調 査	8～1月	2,400	
	6	11-6KY	弘人屋敷跡	高 知 市	新資料館整備事業	高 知 県	本 調 査	11～3月	1,138	
	7	11-7ITM	天神溝田遺跡	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	本 調 査	1～3月	280	
平成24年度	2012	1	12-1NTK	田村北遺跡	南 国 市	高知南国道路	国 交 省	本 調 査	4～2月	27,700
	2	12-2ITM	天神溝田遺跡	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	本 調 査	4～5月	220	
	3	12-3IO	奥名遺跡	い の 町	高知西バイパス	国 交 省	本 調 査	5～8月	1,400	
	4	12-4KY	弘人屋敷跡	高 知 市	新資料館整備事業	高 知 県	本 調 査	5～1月	1,726(5,178)	
平成25年度	2013	1	13-1NTK	田村北遺跡	南 国 市	高知南国道路	国 交 省	本 調 査	4～6月	650
	2	13-2KO	追手筋遺跡	高 知 市	新図書館等複合施設建設	高 知 県	本 調 査	8～2月	3,600	
	3	13-3KK 13-4KK	高知城跡	高 知 市	石垣解体調査	高 知 県	本 調 査	9～10月 2～3月	304	
平成27年度	2015	1	15-1AO	関遺跡	安 芸 市	県道改良	高 知 県	本 調 査	4～5月	460
	2	15-2KU 15-3KT	宇賀遺跡 高田遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	7～3月	5,600	
	3	15-4KK	高知城跡北曲輪	高 知 市	保健衛生庁舎建設	高 知 県	本 調 査	9～3月	890	
平成28年度	2016	1	16-1KF	伏原遺跡	香 美 市	国道195号改良	高 知 県	本 調 査	4～6月	767
	2	16-2KT	高田遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	4～2月	5,700	
	3	16-3NW	若宮ノ東遺跡	南 国 市	都市計画道路高知南国線	高 知 県	本 調 査	8～2月	2,180	
平成29年度	2017	1	17-1NW	若宮ノ東遺跡	南 国 市	都市計画道路高知南国線	高 知 県	本 調 査	4～12月	2,710
	2	17-2KHT	東野山遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	5～10月	4,500	
	3	17-3KT	高田遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	10～2月	1,500	
	4	17-4KK	高知城跡北曲輪	高 知 市	保健衛生庁舎建設	高 知 県	本 調 査	8～12月	1,300	
平成30年度	2018	1	18-1NW	若宮ノ東遺跡	南 国 市	都市計画道路高知南国線	高 知 県	本 調 査	4～12月	2,410
	2	18-2KT	高田遺跡	香 南 市	南国安芸道路	国 交 省	本 調 査	4～3月	7,400	
	3	18-3KCU	高知城跡・梅ノ段北側石垣	高 知 市	石垣改修工事	高 知 県	本 調 査	7～1月	87	
	4	18-4KS	新堀川護岸	高 知 市	都市計画道路はりまや町一宮線	高 知 県	本 調 査	1～3月	59	
令和元年 令和2年度	2019 2020	1	19-1NW	若宮ノ東遺跡	南 国 市	都市計画道路高知南国線	高 知 県	本 調 査	5～11月	2,639
	2	19-2KS	新堀川護岸	高 知 市	都市計画道路はりまや町一宮線	高 知 県	本 調 査	9～1月	840	
	1	20-1NW	若宮ノ東遺跡	南 国 市	都市計画道路高知南国線	高 知 県	本 調 査	5～11月	2,400	
	2	20-2HM	森山城跡	高 知 市	県道甲殿弘岡線	高 知 県	本 調 査	5～1月	1,200	
	3	20-3KS	新堀川護岸	高 知 市	都市計画道路はりまや町一宮線	高 知 県	本 調 査	7～3月	534	
4	20-4KY	土佐藩主山内家墓所	高 知 市	石垣整備	高 知 県	本 調 査	8～10月	33		
5	20-5KCU	高知城跡・梅ノ段北側石垣	高 知 市	石垣改修工事	高 知 県	本 調 査	10～11月	140		

【執筆者紹介（敬称略） / Author】

- 大島 直行 *Naoyuki Ohshima* (人類学者・札幌医科大学客員教授)
禰亙田佳男 *Yoshio Negita* (大阪府立弥生文化博物館 館長)
鋤柄 俊夫 *Toshio Sukigara* (同志社大学文化情報学部教授)
関根 達人 *Tatsuhito Sekine* (弘前大学人文社会科学部教授)
森田 尚宏 *Naohiro Morita* (高知県文化財保護審議会委員・埋蔵文化財センター前所長)
出原 恵三 *Keizo Dehara* (平和資料館草の家副館長・埋蔵文化財センター前職員)
松田 直則 *Naonori Matsuda* (埋蔵文化財センター所長)
吉成 承三 *Shozo Yoshinari* (埋蔵文化財センター調査課長) *
池澤 俊幸 *Toshiyuki Ikezawa* (埋蔵文化財センター班長)
久家 隆芳 *Takayoshi Kuga* (埋蔵文化財センター職員)
山崎 孝盛 *Takamori Yamasaki* (埋蔵文化財センター職員) *

*は編集担当

【備考】

- 参考とした発掘調査報告書や引用書籍・文献等の一覧については紙面の都合上割愛した。
- 付編の発掘調査一覧については、昔の調査で試掘調査としていたものは試掘確認調査に置き換えた。また、旧建設省は国交省によりかえている。調査期間については、年をまたぐものは4月～3月、10月～1月などと略記してある。昔の調査で遺跡名等に後日変更があったものが未変更なものや市町村合併前の町名等の表記のもの、調査期間や調査面積等に多少の曖昧さを含むものもあるが、記録作成上時間が限定され完全を期していない点はご容赦願いたい。

高知県立埋蔵文化財センター 30周年記念特別展

発掘の軌跡

～遺跡で紡いだ高知の歴史～

(開催期間：令和2年10月11日～令和3年4月2日)

令和2年(2020)10月11日

編集・刊行：公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター

〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1

Tel 088-864-0671 Fax 088-864-1423

<https://www.kochi-maibun.jp/>



印刷：川北印刷株式会社 (〒783-0004 高知県南国市大塚甲1725-10)

30th Anniversary Booklet ~ Kochi Prefectural Archeological Center ~



(Pacific Ocean and The Plains of Kochi , The Tamura Remains)